

学校法人太田アカデミー

太田医療技術専門学校

厚生労働省指定養成施設

歯科衛生学科

2024年度 シラバス

OCMT

OTA COLLEGE OF MEDICAL TECHNOLOGY

授業評価の基準

授業では、以下に挙げる方法と基準により授業評価を行う。

1 授業評価の方法

各科目の学修成果は、前期及び後期末に行う筆記試験又は実技試験の得点をもって評価する。科目によっては、受講態度や課題の提出状況、小テスト、中間試験等により数値化した得点（平常点等）を試験素点に加減することで評価する（平常点等を考慮する科目はシラバスに記載する）場合もある。

また、各授業における欠席の上限を定めており、この時間を超えて授業を欠席した者には当該科目の試験の受験資格を与えず、単位不認定とする。

なお、授業開始後 30 分を経過するまでに教室に入室した者は「遅刻」、授業終了の定刻前に教室を退室した者は「早退」とし、遅刻及び早退の累計が 3 回となった場合は 1 回の欠席とする。

2 授業評価の基準

試験の結果（得点）により、以下の基準で評価する。ただし、これとは別に基準を設定して評価を行う場合には別途授業計画（シラバス）に記載し、またその旨担当教員が授業において告知する。

| 試験の得点 | 評価と単位認定 |
|---------|-------------------------|
| 80～100点 | 評価「優」 単位を認定する。 |
| 70～79点 | 評価「良」 単位を認定する |
| 60～69点 | 評価「可」 単位を認定する。 |
| 60点未満 | 評価「不可」 単位を認定しない。 |

なお、本試験の得点が60点未満だった者については再試験を実施し、再試験の得点が60点以上だった者については、評価を「可」として単位を認定する。それ以外の者には単位を認定しない。

| | | | | | | | |
|--------------------------|--|------------|---|-------------|-------|-------------|----|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 1 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 実技 |
| 開講学科 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 1 |
| 科目名 | 保健体育 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | 担当者 | 柏瀬 健一 | | |
| 使用教材 | なし | | | | | | |
| 科目概要 | 保健体育教師としての実務経験を活かし、さまざまな運動・スポーツの実技を通して、心身の健康で調和的な発達を促し、健康とスポーツの自主的、主体的な実践力を育成する。また、健康とスポーツについて理解を深め、社会的、文化的価値について理解を深めるとともに、仲間とのコミュニケーションを深めていく。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1 運動やスポーツの楽しさや喜びを味わわせることができるようにするとともに、自らコミュニケーションをとって意欲的に活動することができる。 2 生涯にわたって健康の保持増進のための自己管理能力を身に付けるとともに、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。 | | | | | | |
| 評価方法 基準 | 授業中の意欲・関心・態度 ②技能 ③思考・判断 ④出席状況の4観点を総合的に評価する。 評価基準・・・80点以上→A、79～70点→B、69～60点→C、60点以下は科の判断にてレポート及び補習実技にて認定する。 | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | 評価は担任を通じて伝達する。 | | | | | | |
| 事前準備 | <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|----------|-----------------|---------|
| 1 | 体育知識 | オリエンテーション | 自動車校体育館 |
| 2 | 体育実技（球技） | ソフトバレーボール | 自動車校体育館 |
| 3 | 〃 | ソフトバレーボール | 自動車校体育館 |
| 4 | 〃 | バレーボール | 自動車校体育館 |
| 5 | 〃 | バレーボール | 自動車校体育館 |
| 6 | 〃 | バレーボール | 自動車校体育館 |
| 7 | 体育的行事 | 球技大会 | 自動車校体育館 |
| 8 | 体育的行事 | 球技大会 | 自動車校体育館 |
| 9 | 〃 | バドミントン | 自動車校体育館 |
| 10 | 〃 | バドミントン | 自動車校体育館 |
| 11 | 〃 | バドミントン | 自動車校体育館 |
| 12 | 〃 | バドミントン | 自動車校体育館 |
| 13 | 〃 | バスケットボール・ドッジボール | 自動車校体育館 |
| 14 | 〃 | バスケットボール・ドッジボール | 自動車校体育館 |
| 15 | 〃 | バスケットボール・ドッジボール | 自動車校体育館 |

| | | | | | | | |
|--------------------------|---|------------|---|-------------|-------|-------------|----|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 2 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 講義 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 1 |
| 科目名 | 心理学 | | | 担当者 | 非常勤講師 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | プロが教える心理学のすべてがわかる本 (ナツメ社) 教員作成資料他 | | | | | | |
| 科目概要 | 臨床心理士としての経験を活かし、人間の行動や行動がどのような原理で動いているのか、また人が環境に適応しながら、よりよく生きていくために、人間にはどのような心の仕組みや働きが備わっているのかなど人間理解に必要な知識や考え方について講義する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1.心理学諸分野の基礎的な知識を理解する。 2.人間の心理・社会に関する幅広い知識を得る。 3.自己や他者の行動と心理を理解する。 | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <ol style="list-style-type: none"> 1.最終授業時に試験を行い、その結果60点以上を合格とする。 2.授業出席数を満たすこと。 | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | 合格点に満たない学生には、再試験を行う。 | | | | | | |
| 事前準備 | <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|--------------------|----------------------|----|
| 1 | 「こころ」の歴史 | 心理学の歴史 | |
| 2 | 「こころ」の歴史 | 心理学の在り方 | |
| 3 | 人は世界をどうとらえるか | 心と脳の関係 | |
| 4 | 人は世界をどうとらえるか | 感情について | |
| 5 | 心のはたらきを知る | 学習、記憶について | |
| 6 | 心のはたらきを知る | 知能について | |
| 7 | 「私らしさ」は どう決まるのか | 心理学における性格について 類型論 | |
| 8 | 「私らしさ」は どう決まるのか | さまざまな性格テスト | |
| 9 | 対人関係の心理学 | セルフモニタリング 自己呈示 | |
| 10 | 対人関係の心理学 | 集団、組織、流行 | |
| 11 | 人間の発達 | 発達とは 発達理論 | |
| 12 | 人間の発達 | ライフステージ別の発達 発達障害 | |
| 13 | 心のトラブルを考える | カウンセリング 心理アセスメント | |
| 14 | 心のトラブルを考える | 心理療法 | |
| 15 | 試験 | 試験 | |

| | | | | | | | |
|--------------------------|---|------------|---|-------------|-------|-------------|----|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 1 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 講義 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 15 | 対象年次 | 1 |
| 科目名 | 文章作法 | | | 担当者 | 非常勤講師 | | |
| | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 本校作成ワーク | | | | | | |
| 科目概要 | <p>高校卒業時まで身に付けた日本語能力について、改めて文法や助詞の使い方、慣用表現など、幅広く点検しながら社会人としてふさわしい表現について学ぶ。また、敬語の基本について講義する。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <p>以下の力を身につけることを基本目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼い表現や学生言葉ではなく、年齢にふさわしい学術的な文章表現を身につける。 2. 日本語の適切な使い方を点検し、語彙力を増やしながら、実習の際、レポートや日誌などにおいて適切な表現ができるようにする。 | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>筆記試験の得点で主な成績を付けるが、その他として授業態度や取り組み方など、学科基準により、総合的に評価する。</p> | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | <p>試験結果を返却し、知識不足や学習不足の部分を再確認させる。</p> | | | | | | |
| 事前準備 | <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <p>提出物などの文章表現において、学習したことを活かそうと考えて受講することが望ましい。</p> | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|---------------------|---|---------------|
| 1 | 日本語力プレチェック | 意味の違いを考え、正しい漢字を使う 間違った表現を認識しよう、漢字力チェック | (課題) 自己紹介文 |
| 2 | 書く力を身に付けよう | 読みやすく漢字を交えよう 読みやすく書こう (漢字とかなの使い分け) | |
| 3 | 句読点 漢語・和語・外来語 | 句読点の効果的な使い方 漢語・和語・外来語の使い分け | |
| 4 | 語彙力アップを目指そう | 意味する言葉の熟語を挙げてみよう 理解語彙と使用語彙 | |
| 5 | 学術的な文章 | 学術的な文章にふさわしくない表現を探そう | |
| 6 | 書いた文を見直そう① | 主語と述語のよじれを修正する 係り受け、推敲、文体不統一、二重表現 | |
| 7 | 書いた文を見直そう② | いろいろな言葉遣いや言い回し 語の使い方を確かめよう | |
| 8 | 書いた文を見直そう③ | 文の成分 (主語・述語・修飾語)、品詞 どの部分が修飾しているのかを考えよう | |
| 9 | やさしい言葉を正しく使う | 使い慣れた言葉の語法やニュアンスの点検 助詞の活用 | |
| 10 | 順接と逆接 | 文章を書き進め方を点検する 順接と逆接、列挙、「てにをは」の使い方 | |
| 11 | 述語の共用 文の基本形① | 述語の共用とは 文の基本形① (目的語+述語) | |
| 12 | 文の基本形② 読み手を考えた構成 | 文の基本形② (主語+述語) 主語の位置を考えて書く | |
| 13 | 修飾語の位置 語順を考えよう | 読み手の理解と共感を得るための書き方 語順に気を配って書く | |
| 14 | 伝えるべきことを絞り込む | 読み手が正しく理解できる書き方 重複を避ける、削れる言葉を削る | |
| 15 | 敬語の使い方 | 尊敬語、謙譲語、丁寧語を理解しよう 社会人としてふさわしい敬語の使い方 | 筆記試験 |
| | 確認テスト | 学習の習熟度を筆記試験を行い、評価する | |

| | | | | | | | | |
|-------------------|--|----------------|---|------|------|-------|------|---|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 2 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 講義 | |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 1 |
| 科目名 | 歯科英語 | | | | 担当者 | 西浦 昭次 | | |
| | <input type="checkbox"/> | 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 歯科英語の練習帳（萌文書林） | | | | | | | |
| 科目概要 | 歯科医院での受付場面や治療場面等における特有の英語表現を理解する。文法よりもコミュニケーションを重視して、関連用語やフレーズ等の定着を図り、発展的にリスニング能力の向上を目指す。 | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1 歯科医院における受付での表現に関連する語句を習得する。 2 歯科治療の場面での表現に関連する語句を習得する。 3 辞書を使って平易な英文の逐語訳ができる。 4 辞書を使って平易な英文の意識ができる。 | | | | | | | |
| 評価方法 | <p>期末試験の結果に平常点（授業での取り組み状況を数値化した得点）を加減して評価する。総合的に60%以上の得点率があった者に単位を認定する。</p> | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 担任教員を通じて伝達する。 | | | | | | | |
| 履修要件（準備学習の具体的な内容） | 講義時には必ず英和辞書を持参すること（電子辞書でも可とする）。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|----------|-------------|----|
| 1 | 中学校英語の復習 | 問題演習を行う | |
| 2 | 中学校英語の復習 | 問題演習を行う | |
| 3 | Unit 1 | 電話での予約の受け方 | |
| 4 | Unit 2 | 来院目的と既往歴の確認 | |
| 5 | Unit 3 | 治療前の指示 | |
| 6 | Unit 4 | 治療後の対応 | |
| 7 | Unit 5 | 治療の経過を確認する | |
| 8 | Unit 6 | X線撮影 | |
| 9 | Unit 7 | 歯の手入れ | |
| 10 | Unit 8 | 歯磨き指導 | |
| 11 | Unit 9 | 喫煙と食生活 | |
| 12 | Unit 10 | 歯周病対策 | |
| 13 | Unit 11 | 乳幼児の齲蝕予防 | |
| 14 | Unit 12 | 歯科保健 | |
| 15 | まとめ | 講義のまとめ | |

| | | | | | | | |
|------------------|--|-----|---|------|-------|------|-------|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 2 | 開講時期 | 後期 | 形態 | 講義・演習 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 1 |
| 科目名 | 秘書概論 | | | 担当者 | 非常勤講師 | | |
| | □ 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 秘書検定クイックマスター3級 改訂新版（早稲田教育出版） 本校作成ワーク | | | | | | |
| 科目概要 | 2年次の実習を控え、社会人としての基本的なビジネスマナーと対人コミュニケーション（立ち居振る舞い、敬語の使い方等）を身に付け、実習の際に礼儀正しい行動ができるよう知識について演習および講義を行う。 | | | | | | |
| 到達目標 | 11月の秘書検定3級受験の合格を目指す。以下を基本目標とする。 1. 自己中心的な幼い考え方ではなく、相手への配慮のできる行動ができること 2. 基本的な敬語の使い方を覚え、電話応対、対人コミュニケーションの際に活用できるようにすること | | | | | | |
| 評価方法 基準 | 秘書検定3級の合否で主な成績を付けるが、その他として授業態度や取り組み方、簡単な接遇のロールプレイング試験を点数化し、総合的に評価するが、最終的な成績は学科基準によって評価する。 | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | 秘書検定結果を返却し、知識不足や学習不足の部分を再確認させる。また、ロールプレイング試験では点数とコメントを伝え、客観的な立ち居振る舞いの到達度を認識できるようにする。 | | | | | | |
| 事前準備 | □ なし □ あり 自分以外が行動をしていなくても、学習したことを普段の学校生活や実習に活かそうと考えて受講することが望ましい。 | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|-------------|--|---------|
| 1 | 敬語の仕組み | 敬語の仕組み（尊敬語、謙譲語、丁寧語） 接遇用語とクッション言葉、二重敬語 | |
| 2 | ビジネス文書 | 社内文書と社外文書のレイアウト、敬称 郵便知識、グラフ（資料）の作成 | |
| 3 | 電話対応の基本 | 基本的な電話の受け方と掛け方 取り次ぎ方 | |
| 4 | 一般知識 | 一般知識用語 会議の基本知識、レイアウト、取り次ぎ方 | |
| 5 | 接遇の心構え | 接遇の心構え 上座・下座、受付のマナー | |
| 6 | 冠婚葬祭① | 冠婚葬祭の基本 慶事・弔事のマナー、水引と上書き | |
| 7 | 冠婚葬祭② | 贈答のマナー、お見舞い ファイリングの基本 | |
| 8 | 秘書の業務① | 定型業務と非定型業務 上司の補佐の仕方 | |
| 9 | 秘書の業務② | 越権行為・独断専行 | |
| 10 | 直前問題演習 | 過去問題演習・解説 | |
| 11 | 接遇ロールプレイング① | 対人コミュニケーションとは 相手の気持ちを汲み取るコミュニケーション | グループワーク |
| 12 | 接遇ロールプレイング② | 接遇コミュニケーション① 歯科医院でのロールプレイング | グループワーク |
| 13 | 接遇ロールプレイング③ | 接遇コミュニケーション② 歯科医院でのロールプレイング練習 | グループワーク |
| 14 | まとめ① | 対人コミュニケーション 傾聴する姿勢、立ち居振る舞いの基本まとめ | |
| 15 | まとめ② | 対人コミュニケーション 歯科医院でのロールプレイング試験 | |

| | | | | | | | |
|--------------------------|--|------------|---|-------------|-------|-------------|----|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 1 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 演習 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 15 | 対象年次 | 1 |
| 科目名 | 情報処理 | | | 担当者 | 非常勤講師 | | |
| | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 30時間でマスターoffice2019 実教出版 | | | | | | |
| 科目概要 | <p>歯科衛生士として実践に必要な情報の収集や分析が出来るよう、また、医療施設において必要なコンピュータ操作ができるように、パソコンの基礎から、ワープロソフトでの文書作成、プレゼンテーションソフトでのプレゼンテーションの作成方法を学ぶ。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンの基礎知識(OS、ブラウザ、操作方法)の習得 2. ワープロソフトで実務的文書(ビジネス文書、連絡・報告書など)の作成ができる 3. プレゼンテーションソフトで効果的なプレゼンテーション資料を作成できる | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>ワープロソフト、プレゼンテーションソフト、それぞれ単元終了後に、与えられた課題をもとに作品を完成させ提出。 クリアしなければならない項目が60%以上で合格。</p> | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | <p>作品提出後、問題の完全解説をクラス全体に行う。細かい質問は個別対応する。</p> | | | | | | |
| 事前準備 | <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|---------------|---|----|
| 1 | コンピュータ基礎 | OS(windows 10)の基礎 ファイルとフォルダ・ブラウザの使い方 | |
| 2 | Word基礎 | wordの画面構成 日本語入力システム・文字入力 | |
| 3 | 文章入力・書式 | ビジネス文書の構成、文書の装飾 | |
| 4 | 表・画像・図形の挿入 | 表を活用した文書の作成 画像や図形を活用した文書の作成 | |
| 5 | Word評価テスト | 問題に沿って文書作成・提出 問題完全解説 | |
| 6 | powerpoint基礎 | Powerpointの画面構成 スライドの作成 | |
| 7 | 表や画像の活用 | アニメーションの付け方付け方 スライドショーの作成 | |
| 8 | powerpointテスト | 問題に沿ってプレゼンテーション作成・提出 問題完全解説 | |
| 9 | | | |
| 10 | | | |
| 11 | | | |
| 12 | | | |
| 13 | | | |
| 14 | | | |
| 15 | | | |

| | | | | | | | |
|------------------|---|-----|---|------|-------|------|-------|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 1 | 開講時期 | 後期 | 形態 | 講義・演習 |
| 開講学科 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 8 | 対象年次 | 1 |
| 科目名 | 介護学 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | 担当者 | 井上 千帆 | | |
| 使用教材 | オリジナル教材 日本医療企画 内田 千恵子編著「はじめて学ぶ介護」一部使用 | | | | | | |
| 科目概要 | <p>現代の高齢社会において、歯科衛生士は重要や役割を果たしている。地域包括ケアシステムの位置づけとともに、介護保険制度では口腔機能に係る多くの加算が設定されている。活躍の場の拡大が見込まれることから、高齢者や障害児者の特性や対人援助の手法を学ぶことにより、多岐にわたる患者への対応を学ぶ。</p> <p>また、介護福祉士の実務経験を活かし、介護技術の基本や身体介護の注意すべき点を習得する訓練を行う。多様な心身機能の患者に対応し安心、かつ安全な介助方法を講義する。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1.高齢社会の現状を理解し、地域包括ケアシステムや在宅医療連携拠点を知ることができ、介護とのつながりを知ることができる。 2.対人援助の基礎を学び、障害別の具体的なコミュニケーション能力や介助方法を理解することができる。 3.基本的な介護技術の習得により、安全で安楽な移乗・移動介助ができる。 | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>期末試験として筆記試験を実施する。授業の取り組みや出席率を10%、筆記試験を90%とし、総合的に60点以上の者に単位を認定する（学科の規定に準ずる）。</p> | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | <p>毎回の授業において理解度や不明な点に関するアンケート調査を実施し、次回の授業にて解説、授業内容への反映を行い理解を深める。また、筆記試験後に返却、今後の歯科と介護との連携の重要性を感性として残して欲しい。</p> | | | | | | |
| 事前準備 | <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <p>初回時に「介護」に対するイメージを表現して欲しい。授業毎においては、介護の楽しさを感じて欲しい。</p> | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|---|------------------------|---|----|
| 1 | ガイダンス 日本における少子高齢化 | 「介護学」で学ぶこと、2025年問題とは、日本における社会保障制度の問題点 | |
| 2 | 対人援助の基本 障害別の対人援助① | 対人援助やコミュニケーション技術とは 視覚障害者に対する援助方法と応用 【演習】点字の法則を理解しよう | |
| 3 | 障害別の対人援助② | 聴覚障害者に対する援助方法と応用 【演習】手話で会話をしてみよう | |
| 4 | 障害別の対人援助③ | 言語障害への理解とコミュニケーション技術 【演習】言語障害って？ | |
| 5 | 障害別の対人援助③ | 認知症の理解と援助技術、ユマニチュード 【演習】これってやっても良いの？ | |
| 6 | これからの福祉について 介護技術の基本 | 介護の概念、介護保険と歯科衛生士との関連 ボディメカニクスの原則と基本 | |
| 7 | 介護技術の応用 | 視覚障害者に対する移動介助 車いすからユニットへの安全な移乗介助方法 | |
| 8 | まとめ | 筆記試験（論文） | |

| | | | | | | | | |
|--------------------------|--|------------|---|-------------|-------------|-----------|-------------|---|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 4 | 開講時期 | 通年 | 形態 | 講義 | |
| 開講学科 | 歯科衛生学科 | | | | 配当時間 | 60 | 対象年次 | 1 |
| 科目名 | 解剖・生理・組織発生学 | | | | 担当者 | 岡田 淳一 | | |
| | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | | |
| 使用教材 | 人体の構造と機能 | | | | 医歯薬出版 | | | |
| 科目概要 | <p>人体の成り立ちを理解するために、体の構造と機能、組織・発生に関する基本的知識を習得する。</p> | | | | | | | |
| 到達目標 | <p>1.身体の一部を解剖学的な名称で表現できる。 2.細胞の基本的生理機能を概説できる。 3.遺伝子と遺伝情報を概説できる。 4.心臓の構造と機能を概説できる 5.脳と脊髄の基本構造と機能を概説できる。</p> | | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>前期及び後期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし, 60点未満の者には再試験を課す。</p> | | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | <p>担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</p> | | | | | | | |
| 事前準備 | <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|--------|----------|--------------|
| 1 | 細胞 | 細胞と組織 | 人体の不思議展 |
| 2 | 細胞 | 器官系 | |
| 3 | 細胞 | ホメオスタシス | |
| 4 | 運動系 | 身体の区分と姿勢 | |
| 5 | 運動系 | 骨格と関節 | |
| 6 | 運動系 | 骨格筋と運動 | 人体Ⅰ 骨・骨格 |
| 7 | 神経系 | 神経細胞と組織 | |
| 8 | 神経系 | 中枢神経系 | |
| 9 | 神経系 | 末梢神経系 | |
| 10 | 感覚器官 | 体性感覚 | |
| 11 | 感覚器官 | 特殊感覚 | |
| 12 | 血液 | 血液の成分と機能 | |
| 13 | 血液 | 血液型と止血機構 | |
| 14 | 生体防御機構 | 免疫とリンパ系 | 人体Ⅰ 生命を守る |
| 15 | 試験 | 前期試験 | |

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|-------|-----------|-------------|
| 16 | 循環器系 | 心臓 | |
| 17 | 循環器系 | 血管 | |
| 18 | 循環器系 | 循環調整 | |
| 19 | 呼吸器系 | 気道と肺 | |
| 20 | 呼吸器系 | 呼吸運動とガス交換 | |
| 21 | 呼吸器系 | 呼吸の調整 | |
| 22 | 消化器系 | 消化器系の構造 | |
| 23 | 消化器系 | 消化と吸収 | 人体Ⅰ 胃腸 |
| 24 | 泌尿器系 | 尿の生成 | |
| 25 | 泌尿器系 | 体液の調整 | |
| 26 | 内分泌系 | 下垂体ホルモン | |
| 27 | 内分泌系 | その他のホルモン | 人体Ⅰ 生命誕生 |
| 28 | 代謝と体温 | 代謝とエネルギー | |
| 29 | 代謝と体温 | 体温調整 | |
| 30 | 試験 | 後期試験 | |

| | | | | | | | |
|--------------------------|---|------------|---|-------------|-------|-------------|----|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 2 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 講義 |
| 開講学科 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 1 |
| 科目名 | 栄養と代謝 | | | 担当者 | 非常勤講師 | | |
| | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 人体の構造と機能2 医歯薬出版 | | | | | | |
| 科目概要 | <p>歯科医師としての実務経験を活かし、人体の生命現象を分子レベルの化学反応から理解できるよう、人体の代謝と機能に関する基本的知識を解説する。また、栄養の基本的概念を理解し、食物より摂取された各栄養素の生体内における消化、吸収、代謝を中心にその生理的意義などについて学べるよう講義する。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <p>1. 生体構成成分と栄養素の種類および作用を説明できる。 2. 栄養素の消化と吸収を説明できる。 3. エネルギー代謝を説明できる。</p> | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。</p> | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | <p>担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</p> | | | | | | |
| 事前準備 | <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|-------------|------------------|----|
| 1 | 序章 栄養と代謝 | 本講義で学ぶ項目とその意義 | |
| 2 | 第一章 生体と構成要素 | 細胞と基本骨格を知る | |
| 3 | 生体の栄養素 | 五大栄養素、それぞれの科学反応 | |
| 4 | 第二章 生体の科学反応 | 生体を構成する成分と化学反応 | |
| 5 | 糖質と脂質 | エネルギーの合成と代謝の仕組み | |
| 6 | たんぱく質とアミノ酸 | 必須アミノ酸を覚える | |
| 7 | 生体の恒常性 | ホメオスタシス、生体の調節機構 | |
| 8 | 第三章 口腔生化学総論 | 歯と歯周組織 その構成要素 | |
| 9 | 歯周組織 | 結合組織・コラゲーンとエラスチン | |
| 10 | 歯の組織 | 無機成分と有機成分 | |
| 11 | 骨代謝 | 骨の生成と吸収、石灰化機構 | |
| 12 | 唾液の生化学 | 唾液の組成と機能 | |
| 13 | プラークの生化学 | バイオフィルムに関して | |
| 14 | 齲蝕発生機構 | 菌体外毒素の生化学 | |
| 15 | 試験 | 前期試験 | |

| | | | | | | | |
|--------------------------|--|------------|---|-------------|-------|-------------|----|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 2 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 講義 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 1 |
| 科目名 | 口腔解剖学 | | | 担当者 | 非常勤講師 | | |
| | ☐ 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学、口腔組織発生学・口腔生理学 (医歯薬出版) | | | | | | |
| 科目概要 | 歯科医師の実務経験を活かし、顎・口腔の構造 歯と歯周組織の発生についての基礎知識について解説する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔の範囲と各部位の名称を説明できる。 2. 口腔を構成する骨、頭頸部の筋と作用を説明できる。 3. 口腔の脈管と神経、また唾液腺、咽頭と喉頭の構造を説明できる。 4. 歯と歯周組織の発生について説明できる。 | | | | | | |
| 評価方法 基準 | 期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70~79点B, 60~69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。 | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | 担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。 | | | | | | |
| 事前準備 | <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|--------------|-------------------------------------|----|
| 1 | 口腔とその周囲の解剖学 | 予習 | |
| 2 | 口腔とは | 口腔とその周囲の表面 口腔前庭 | |
| 3 | 口腔とは | 固有口腔 | |
| 4 | 口腔を構成する骨 | 口蓋を構成する骨 | |
| 5 | 口腔を構成する骨 | 口腔を構成する骨 | |
| 6 | 頭頸部の筋と作用 | 顔面筋（表情筋）・咀嚼筋・舌筋 頸部の筋・顎下三角とオトガイ三角 | |
| 7 | 顎関節 | 骨・軟組織 | |
| 8 | 口腔周囲の脈管 | 動脈系・静脈系・リンパ系 | |
| 9 | 神経 | 三叉神経・顔面神経・舌咽神経 | |
| 10 | 神経 | 迷走神経・舌下神経 頭頸部に分布する脊髄神経・頭部の自律神経 | |
| 11 | 唾液腺・咽頭と喉頭の構造 | 唾液腺・大唾液腺・小唾液腺 咽頭・喉頭・ 食堂・嚥下に関する筋群 | |
| 12 | 歯と歯周組織の発生 | 先行歯・代生歯および加生歯の発生 | |
| 13 | 歯と歯周組織の発生 | 歯の萌出・脱落と交換・萌出の臨床的考察 | |
| 14 | 復習 | 前期の総復習 | |
| 15 | 試験 | 前期試験 | |

| | | | | | | | |
|------------------|--|-----|---|------|-------|------|----|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 2 | 開講時期 | 後期 | 形態 | 講義 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 1 |
| 科目名 | 口腔生理学・口腔組織発生学 | | | 担当者 | 非常勤講師 | | |
| | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 歯・口腔の構造と機能口腔解剖学、口腔組織発生学・口腔生理学 医歯薬出版 | | | | | | |
| 科目概要 | 歯科医師の実務経験を活かし、歯と歯周組織の構造と機能、顎・口腔系の機能についての基礎知識を解説する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1.下顎の運動を概説できる。咀嚼の意義を説明できる。 2.摂食・咀嚼・嚥下の機序を説明できる。 3.口腔粘膜の分類と特徴を部位ごとに説明できる。 4.歯と歯周組織の構造と機能について説明できる | | | | | | |
| 評価方法 基準 | 期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。 | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | 期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。 | | | | | | |
| 事前準備 | <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|--------------------|-------------------------------|----|
| 1 | 歯と歯周組織の構造と機能、口腔生理学 | 予習 | |
| 2 | 歯と歯周組織の構造と機能 | エナメル質、象牙質・歯髄複合体 | |
| 3 | 歯と歯周組織の構造と機能 | エナメル質、象牙質・歯髄複合体 | |
| 4 | 歯と歯周組織の構造と機能 | セメント質、歯根膜、歯槽骨、歯周組織の整理、口腔粘膜、歯肉 | |
| 5 | 歯と歯周組織の構造と機能 | セメント質、歯根膜、歯槽骨、歯周組織の整理、口腔粘膜、歯肉 | |
| 6 | 口腔生理学 | 歯と口腔の感覚、味覚と嗅覚 | |
| 7 | 口腔生理学 | 歯と口腔の感覚、味覚と嗅覚 | |
| 8 | 口腔生理学 | 咬合と咀嚼・吸綴 | |
| 9 | 口腔生理学 | 咬合と咀嚼・吸綴 | |
| 10 | 口腔生理学 | 嚥下と嘔吐 | |
| 11 | 口腔生理学 | 嚥下と嘔吐 | |
| 12 | 口腔生理学 | 発声 | |
| 13 | 口腔生理学 | 唾液 | |
| 14 | 復習 | 後期の総復習 | |
| 15 | 試験 | 後期試験 | |

| | | | | | | | |
|------------------|---|-----|---|------|-------|------|----|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 2 | 開講時期 | 後期 | 形態 | 講義 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 1 |
| 科目名 | 歯牙解剖学 | | | 担当者 | 非常勤講師 | | |
| | ☐ 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 歯・口腔の構造と機能口腔解剖学、口腔組織発生学・口腔生理学 医歯薬出版 | | | | | | |
| 科目概要 | 歯科技工士の実務経験を活かし、歯の表示法や記号についての知識、人の歯の形態、歯の発生や歯列、咬合、歯根形態についての基礎知識を解説する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1.歯の表示法や記号について説明できる。 2.歯種を鑑別できる。 3.歯の萌出について説明できる。 4.歯列と咬合について説明できる。 5.歯の形態を歯種別に説明できる。 6.歯の形態異常について説明できる。 | | | | | | |
| 評価方法 基準 | 歯型彫刻実習物提出物、期末試験、小テストにより総合的に評価する。 | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | 実習時の修正とデモ、試験内容の解説 | | | | | | |
| 事前準備 | <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|----------------------|--------------|----|
| 1 | 歯牙解剖学概論 | 歯牙解剖とは？ | |
| 2 | 歯および歯周組織の構造と機能 | 歯の形態 | |
| 3 | 歯および歯周組織の構造と機能 | 歯の用語 | |
| 4 | 歯および歯周組織の構造と機能 | 永久歯の特徴 | |
| 5 | 歯および歯周組織の構造と機能 | 永久歯：前歯部 | |
| 6 | 歯および歯周組織の構造と機能 | 永久歯：臼歯部 | |
| 7 | 歯および歯周組織の構造と機能 | 乳歯：前歯部 | |
| 8 | 歯および歯周組織の構造と機能 | 乳歯：臼歯部 | |
| 9 | 歯および歯周組織の構造と機能 | 歯列、歯列弓 | |
| 10 | 歯および歯周組織の構造と機能 | 咬合、顎位 | |
| 11 | 歯および歯周組織の構造と機能 | 異常歯 | |
| 12 | 歯、口腔の構造と機能を理解するための実習 | 歯型彫刻（石膏棒による） | |
| 13 | 歯、口腔の構造と機能を理解するための実習 | 歯型彫刻（石膏棒による） | |
| 14 | 歯、口腔の構造と機能を理解するための実習 | 歯型彫刻（石膏棒による） | |
| 15 | 試験 | 後期試験 | |

| | | | | | | | |
|--------------------------|---|------------|---|-------------|-------|-------------|----|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 2 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 講義 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 1 |
| 科目名 | 病理・口腔病理学 | | | 担当者 | 非常勤講師 | | |
| | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 病理学・口腔病理学 | | | 医歯薬出版 | | | |
| 科目概要 | <p>歯科医師の実務経験を活かし、口腔領域に発生する疾病の発生機序および病理学的特徴を理解するために、疾病の概念、病因と病態に関する基本的知識について講義する。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1.細胞・組織の変性、萎縮、壊死を概説できる。 2.肥大、増生、化生、再生を概説できる。 3.炎症に参与する細胞の種類と機能を説明できる。 4.腫瘍の病因と進展を概説できる。 5.歯の発育障害の種類と病態を概説できる。 | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。</p> | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | <p>担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</p> | | | | | | |
| 事前準備 | <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|------------|------------------|----|
| 1 | 病理学序論・代謝 | 病因論、代謝障害 | |
| 2 | 循環障害、増殖と修復 | 循環障害とは？ 肥大と増生 | |
| 3 | 炎症と免疫応答異常 | 炎症とは？ 免疫、免疫異常 | |
| 4 | 腫瘍、遺伝性疾患 | 腫瘍の発生、遺伝性疾患と奇形 | |
| 5 | 口腔病理学 | 歯の発生異常、歯の損傷と付着物 | |
| 6 | 口腔病理学 | う蝕、象牙質、歯髄複合体の病変 | |
| 7 | 歯周組織の病態 | 根尖部組織病変、辺縁部組織病変 | |
| 8 | 口腔領域の奇形 | 口腔発育異常 | |
| 9 | 口腔粘膜病変 | 口腔粘膜疾患、口腔癌、前癌病変 | |
| 10 | 口腔領域の嚢胞と腫瘍 | 口腔嚢胞、口腔腫瘍と腫瘍様病変 | |
| 11 | 顎骨、唾液腺病変 | 顎骨の病変、唾液腺の病変について | |
| 12 | 口腔組織の加齢変化 | 加齢、全身疾患に伴う口腔変化 | |
| 13 | 総括 | 総括 | |
| 14 | 総括テスト | 総括テスト | |
| 15 | 前期試験 | 前期試験 | |

| | | | | | | | | |
|--------------------------|---|------------|---|-------------|-------------|-----------|-------------|---|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 2 | 開講時期 | 後期 | 形態 | 講義 | |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 1 |
| 科目名 | 微生物・口腔微生物学 | | | | 担当者 | 非常勤講師 | | |
| | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | | |
| 使用教材 | 微生物学 (医歯薬出版) | | | | | | | |
| 科目概要 | <p>歯科医師の実務経験を活かし、口腔の常在微生物とそれらが原因となる疾患を理解するために、微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態と生体の防御機構としての免疫に関する基本的知識を解説する。</p> | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染と発症を説明できる 2. 滅菌消毒の意義や院内感染の原因や予防法について説明できる 3. 免疫やワクチン、アレルギーについて説明できる 4. 微生物と口腔環境の関わりを説明できる | | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。</p> | | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | <p>担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</p> | | | | | | | |
| 事前準備 | <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|--------------|------------------|----|
| 1 | 疾病と微生物 | 疾病と微生物、免疫学 | |
| 2 | 疾病と微生物 | 感染と感染症 | |
| 3 | 微生物の病原性 | 微生物の分類 | |
| 4 | 微生物の病原性 | 細菌の性状と病原性 | |
| 5 | 宿主防御機構と免疫 | 宿主防御機構、免疫機構 | |
| 6 | 宿主防御機構と免疫 | 液性免疫、細胞性免疫、アレルギー | |
| 7 | 口腔微生物 | 口腔細菌叢、デンタルプラーク | |
| 8 | 口腔微生物 | 歯石の形成、バイオフィルム感染症 | |
| 9 | 口腔感染症 | う蝕、歯内感染症 | |
| 10 | 口腔感染症 | 歯周病、その他口腔感染症 | |
| 11 | 化学療法 | 化学療法と化学療法薬 | |
| 12 | 化学療法 | 主な化学療法薬の種類と特徴 | |
| 13 | 院内感染対策と滅菌、消毒 | 口腔外感染と院内感染対策 | |
| 14 | 院内感染対策と滅菌、消毒 | 滅菌と消毒の方法 | |
| 15 | 試験 | 後期試験 | |

| | | | | | | | |
|------------------|---|-----|---|-------|-------|------|----|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 2 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 講義 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 1 |
| 科目名 | 薬理・歯科薬理学 | | | 担当者 | 非常勤講師 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 薬理学 | | | 医歯薬出版 | | | |
| 科目概要 | <p>薬剤師の実務経験を活かし、薬の薬理作用や適用方法、剤形、保存等について、また薬物名、薬理作用と安全性や副作用、安全な薬物療法、服薬指導などに関する基本的知識を解説する。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物療法を説明できる 2. 薬物の作用機序を説明できる 3. 医薬品の分類を説明できる 4. 炎症のメカニズムを概説できる 5. 歯科治療に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。</p> | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | <p>担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</p> | | | | | | |
| 事前準備 | <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|---------------|--------------------|----|
| 1 | 総論 | 薬物の作用 | |
| 2 | 総論 | 薬物動態 | |
| 3 | 総論 | 薬 | |
| 4 | 疾病の回復を促進する薬 | ビタミンとホルモン剤 | |
| 5 | 疾病の回復を促進する薬 | 末梢神経系と薬 | |
| 6 | 疾病の回復を促進する薬 | 中枢神経系と薬 | |
| 7 | 疾病の回復を促進する薬 | 循環器系と薬 | |
| 8 | 疾病の回復を促進する薬 | 腎臓に作用する薬・呼吸器系・消化器系 | |
| 9 | 疾病の回復を促進する薬 | 血液・免疫・悪性腫瘍 | |
| 10 | 疾病の回復を促進する薬 | 代謝性疾患・炎症 | |
| 11 | 疾病の回復を促進する薬 | 痛み・局所麻酔薬 | |
| 12 | 疾病の回復を促進する薬 | 抗感染症・消毒 | |
| 13 | 歯科疾患の回復を促進する薬 | う蝕予防薬・歯内療法薬 | |
| 14 | 歯科疾患の回復を促進する薬 | 歯周疾患・顎・口腔 | |
| 15 | 試験 | 前期試験 | |

| | | | | | | | |
|--------------------------|--|------------|---|-------------|-------------|-----------|------------------|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 4 | 開講時期 | 通年 | 形態 | 講義 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | | 配当時間 | 60 | 対象年次 1 |
| 科目名 | 口腔衛生学 | | | | 担当者 | 非常勤講師 | |
| | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み | | | | 医歯薬出版 | | |
| 科目概要 | <p>歯科医師の実務経験を活かし、健康と予防歯学の概念や、歯科衛生士としての社会での役割について、また、歯・口腔の健康に関わる社会の仕組み、歯科疾患の予防能力を高める態度、歯・口腔の健康と予防に関する基本的知識について講義する。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔と全身の健康の関係を説明できる。 2. 口腔清掃法の種類を列挙できる。 3. う蝕の疫学的特性を概説できる。 4. う蝕の発病要因を説明できる。 5. 人間生態系におけるフッ化物の意義を説明できる。 | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。</p> | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | <p>担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</p> | | | | | | |
| 事前準備 | <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|--------------|--------------------|----|
| 1 | 衛生学総論 | 歯・口腔の健康と予防 | |
| 2 | 歯と口腔の健康 | 歯・口腔の構造・発生・成長・発育 | |
| 3 | 歯と口腔の健康 | 歯・口腔の機能・全身との関わり | |
| 4 | 歯・口腔の付着物・沈着物 | ペリクル・プラーク | |
| 5 | 歯・口腔の付着物・沈着物 | マテリアルバ・歯石 | |
| 6 | 歯・口腔の付着物・沈着物 | 舌苔・外来性沈着物 | |
| 7 | 口腔清掃 | 口腔清掃法・人工的清掃法の分類と用具 | |
| 8 | 口腔清掃 | 不適切な口腔清掃による為害作用 | |
| 9 | 口腔清掃 | 歯磨剤・研磨剤 | |
| 10 | 歯科疾患の疫学 | う蝕の疫学 | |
| 11 | 歯科疾患の疫学 | 歯周疾患の疫学 | |
| 12 | う蝕の予防 | う蝕発生のメカニズム | |
| 13 | う蝕の予防 | う蝕の発生要因 | |
| 14 | う蝕の予防 | う蝕活動性 | |
| 15 | 試験 | 前期試験 | |

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|----------------------|---------------------------------------|----|
| 16 | フッ化物によるう蝕予防 | わが国のフッ化物応用 | |
| 17 | フッ化物によるう蝕予防 | フッ化物の一般性状と用語 人間生態系におけるフッ化物 | |
| 18 | フッ化物によるう蝕予防 | フッ化物摂取量とその基準 フッ素の代謝、フッ化物の毒性 | |
| 19 | フッ化物によるう蝕予防 | フッ化物応用によるう蝕予防方法 ライフステージに応じたフッ化物応用法 | |
| 20 | 歯周疾患の予防 | 歯周疾患の症状と分類 | |
| 21 | 歯周疾患の予防 | 歯周疾患の発生機序 | |
| 22 | 歯周疾患の予防 | 歯周疾患の全身に与える影響 | |
| 23 | 歯周疾患の予防 | 歯周疾患の予防手段と処置 | |
| 24 | その他疾患の予防 | その他疾患についての要因 予防についての説明 | |
| 25 | ライフステージごとの 口腔保健管理 | 母子、小児、成人、老年期の 口腔衛生管理 | |
| 26 | 母子・学校保健管理 | 母子保健の目的・概要 小児保健、歯・保健について | |
| 27 | 母子・学校保健管理 | 学校保健の意義・概要・活動と組織 | |
| 28 | 成人高齢者歯科保健 | 成人保健の意義・特徴・現状 | |
| 29 | 成人高齢者歯科保健 | 老人保健の意義・行政組織と関係する法律 | |
| 30 | 試験 | 後期試験 | |

| | | | | | | | |
|--------------------------|---|------------|---|-------------|-------|-------------|----|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 2 | 開講時期 | 後期 | 形態 | 講義 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 1 |
| 科目名 | 公衆衛生学 | | | 担当者 | 非常勤講師 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み (医歯薬出版) | | | | | | |
| 科目概要 | <p>歯科医師の実務経験を活かし、生活と健康に関わる社会の仕組みと地域社会における保健対策の基本的な考え方、地域集団に対する疾病の予防能力を高める態度、健康に関わる地域の役割に関する基本的知識を解説する。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1.地域保健を担う組織の仕組みと特徴を概説できる。 2.母子保健、学校保健の概略を説明できる。 3.成人期の口腔保健管理を説明できる。 4.産業保健の目的を説明できる。高齢者の保健福祉対策について説明できる。 | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。</p> | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | <p>担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</p> | | | | | | |
| 事前準備 | <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|-----------|-------------------|----|
| 1 | 総論 | 健康の概念 | |
| 2 | 地域保健・公衆衛生 | 地域保健の概念・健康日本21 | |
| 3 | 地域保健・公衆衛生 | メタボリックシンドローム・PDCA | |
| 4 | 地域保健・公衆衛生 | ヘルスプロモーション | |
| 5 | 母子保健 | 概要・母子保健手帳 | |
| 6 | 母子保健 | 1歳6か月児・3歳児保険診査 | |
| 7 | 母子保健 | う蝕罹患型 | |
| 8 | 学校保健 | 概要・保健教育と保健管理 | |
| 9 | 学校保健 | COとGO | |
| 10 | 産業保健 | 保健管理体制（要因・管理） | |
| 11 | 産業保健 | 職業性疾病 | |
| 12 | 老人保健 | 介護保険制度 | |
| 13 | 老人保健 | 地域包括ケアシステム | |
| 14 | 精神保健・国際保健 | 概要 | |
| 15 | 試験 | 後期試験 | |

| | | | | | | | |
|------------------|---|-----|---|-------|-------|------|----|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 2 | 開講時期 | 後期 | 形態 | 講義 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 1 |
| 科目名 | 衛生行政・統計 | | | 担当者 | 西山 裕佳 | | |
| | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 歯科衛生士のための衛生行政・社会福祉・社会保険 | | | 医歯薬出版 | | | |
| 科目概要 | <p>歯科衛生士の実務経験を活かし、生活と健康に関わる社会の仕組みと、地域社会における保健対策の基本的な考え方、地域集団に対する疾病の予防能力を高める態度、健康に関わる地域の役割について基本的知識を解説する。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <p>①地域保健の仕組み、特徴を概説できる ②母子保健について概説できる ③学校保健について意義、仕組みを概説できる ④生活習慣病について理解し成人保健対策を概説できる ⑤産業保健の目的、関する法規などを概説できる ⑥高齢者の保健福祉対策について概説できる ⑦精神保健の定義及び意義、また精神障害者の歯科保健の問題について概説できる ⑧災害時の保健医療対策、保健活動を概説できる ⑨国や地域により健康水準、保健医療が異なることを理解し、国際保健について概説できる</p> | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。</p> | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | <p>担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</p> | | | | | | |
| 事前準備 | <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|---------|-----------------------------|----|
| 1 | 社会保障制度 | 社会保障制度について | |
| 2 | 衛生行政 | 衛生行政について | |
| 3 | 衛生関係法 | 医師法、歯科医師法、歯科衛生士法について | |
| 4 | 衛生関係法 | 関連する医療関係者の法、医療法、薬事に関する法 | |
| 5 | 衛生関係法 | 地域、感染症、食に関連する法 | |
| 6 | 保健医療の動向 | 厚生関係統計調査・国民の健康状態と受療状況 | |
| 7 | 保健医療の動向 | 医療施設・医療関係者 | |
| 8 | 社会保険 | 社会保険制度・医療保険・年金制度 | |
| 9 | 社会保険 | 労働保険・介護保険 | |
| 10 | 社会福祉 | 社会福祉制度・社会福祉行政の組織と従事者・生活保護制度 | |
| 11 | 社会福祉 | 児童と家庭・障害者・高齢者福祉制度 | |
| 12 | 保健医療の実務 | 医療保険の仕組み・保険医療機関での実務 | |
| 13 | 保健医療の実務 | 介護保険での実務 | |
| 14 | まとめ | まとめ | |
| 15 | 後期試験 | 後期試験 | |

| | | | | | | | |
|--------------------------|---|------------|---|-------------|-------|-------------|----|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 2 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 講義 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 1 |
| 科目名 | 歯科衛生学総論 | | | 担当者 | 金子 聖美 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 歯科衛生学総論 | | | 医歯薬出版 | | | |
| 科目概要 | <p>歯科衛生士の実務経験を活かし、歯科衛生士の業務内容・歴史・職域・関係法規および保健・医療・福祉関係職種の概要、歯科衛生士を取り巻く環境について講義する。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科衛生業務の構成要素を説明できる。 2. 対象者を第一に考えた健康づくりを支援する理由を説明できる。 3. 業務記録の意義を説明できる。 4. 保健・医療・福祉分野の専門職の業務を概説できる。 | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。</p> | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | <p>担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</p> | | | | | | |
| 事前準備 | <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|-------------------|-------------------|----|
| 1 | オリエンテーション | あなたの目指す歯科衛生士とは | |
| 2 | 第1章 歯科衛生学とは | 健康の考え方・歯科衛生活動の対象者 | |
| 3 | 第2章 歯科衛生士の歴史 | 歯科衛生士の誕生 | |
| 4 | 第3章 歯科衛生活動のための理論 | 予防の概念 | |
| 5 | 第3章 歯科衛生活動のための理論 | 科学的思考（演習） | |
| 6 | 第4章 歯科衛生過程 | 歯科衛生過程について | |
| 7 | 第4章 歯科衛生過程 | 歯科衛生過程について（演習） | |
| 8 | 第5章 歯科衛生士法と歯科衛生業務 | 戴帽式参加 | |
| 9 | 第5章 歯科衛生士法と歯科衛生業務 | 歯科衛生士法 | |
| 10 | 第5章 歯科衛生士法と歯科衛生業務 | 安全管理 | |
| 11 | 第6章 歯科衛生士と医療倫理 | 医の倫理と患者の権利 | |
| 12 | 第6章 歯科衛生士と医療倫理 | インフォームドコンセント | |
| 13 | 第7章 歯科衛生士の活動と組織 | 歯科衛生活動と組織 | |
| 14 | 第8章 海外における歯科衛生士 | アメリカ・韓国・北欧・イギリス | |
| 15 | 試験 | 前期試験 | |

| | | | | | | | |
|--------------------------|--|------------|---|-------------|-------|-------------|----|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 1 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 講義 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 1 |
| 科目名 | 歯科臨床概論 | | | 担当者 | 非常勤講師 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 歯科衛生士のための歯科臨床概論 医歯薬出版 | | | | | | |
| 科目概要 | <p>歯科医師の実務経験を活かし、歯科医療について疾患の種類やその特異性について、またそれらの治療の流れについての概要を解説する。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科医療の特殊性、歯科患者の心理・患者様への対応について理解する。 2. 歯科医療の現場、また感染症の取り扱い方について説明できる。 3. 歯科臨床における歯科衛生士の役割について理解する。 | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。</p> | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | <p>担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</p> | | | | | | |
| 事前準備 | <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|----------------|--------------------------------|----|
| 1 | 歯科診療とは | 歯科臨床の場に関わる人々、対象者 | |
| 2 | 歯科診療所 | 歯科診療所の紹介 スタッフ・安全管理 | |
| 3 | 歯科診療所における業務 | 歯科診療所全体に関わる業務 | |
| 4 | 歯科診療の流れ | 歯科診療所の1日 | |
| 5 | ライフステージと歯科診療 | さまざまなライフステージへの関わり | |
| 6 | 歯科診療所で行うこと | 主な診療の流れ | |
| 7 | 診査・検査・前処置 | バイタルサインの確認・画像歯周検査 痛みのコントロール | |
| 8 | 小児歯科 | 小児歯科とは | |
| 9 | 歯科矯正 | 矯正歯科治療の概要 | |
| 10 | 口腔外科 | 口腔外科診療の流れ、外傷とは | |
| 11 | 歯科保存 | 歯科保存とは | |
| 12 | 歯周治療 | 歯周治療とは | |
| 13 | 歯科補綴 | 歯科補綴の概要 | |
| 14 | 障害者歯科 高齢者歯科 | 障害者歯科 高齢者歯科の特徴 | |
| 15 | 試験 | 前期試験 | |

| | | | | | | | |
|------------------|---|-----|---|-------|-------|------|----|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 1 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 講義 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 2 |
| 科目名 | 歯科保存修復学 | | | 担当者 | 非常勤講師 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 歯の硬組織・歯髄疾患保存修復・歯内療法 | | | 医歯薬出版 | | | |
| 科目概要 | <p>歯科医師の実務経験を活かし、齲蝕や歯髄疾患の病態および各疾患による欠損部の修復法やその材料についてや、歯科保存治療における歯科衛生士の役割について講義する。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <p>歯に生じる様々な疾患を理解し、その症状、診断法及び治療法を理解する。また、使用される薬剤などの性質も理解する。</p> | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。</p> | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | <p>担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</p> | | | | | | |
| 事前準備 | <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|-----------|---------------------------------|----|
| 1 | 歯の保存療法の種類 | 歯の保存の意義と対象となる硬組織疾患 | |
| 2 | 口腔検査 | 口腔内検査の基礎知識と前準備・医療面接 | |
| 3 | 口腔検査 | 現病の検査・各種検査法の違いと特徴 | |
| 4 | 保存修復の概要 | 歯の硬組織疾患の種類と病態 | |
| 5 | 保存修復の概要 | 窩洞の構成要素・窩洞の分類 | |
| 6 | 保存修復の概要 | 保存修復治療における診療のステップと前準備 | |
| 7 | 保存修復の概要 | 歯の切削器具・方法 | |
| 8 | 保存修復の概要 | 歯髄の保護方法・保存修復法の種類 | |
| 9 | 直接法修復 | 直接法修復・コンポジットレジン修復とは種類と接着の基礎 | |
| 10 | 直接法修復 | 光重合型コンポジットレジン修復の特徴と手順 | |
| 11 | 直接法修復 | セメント修復・歯科用セメントの種類と用途 | |
| 12 | 間接法修復 | 間接法修復・インレーアンレー修復の手順および技工操作の基礎知識 | |
| 13 | 間接法修復 | ベニア修復の種類・適応症と禁忌症 | |
| 14 | 間接法修復 | 合着材および接着材 | |
| 15 | 試験 | 前期試験 | |

| | | | | | | | |
|--------------------------|--|------------|---|-------------|-------|-------------|----|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 1 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 講義 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 2 |
| 科目名 | 歯科補綴学 | | | 担当者 | 非常勤講師 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 咀嚼障害・咬合異常 | | | 医歯薬出版 | | | |
| 科目概要 | 歯科医師の実務経験を活かし、補綴治療の補助のために必要な検査や治療手順および器材の使用法を解説する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1.歯の欠損に伴う障害と補綴歯科治療について説明できる。 2.補綴装置の種類とその構造について説明できる。 3.補綴歯科治療における検査、診断、器材について説明できる。 | | | | | | |
| 評価方法 基準 | 期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。 | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | 担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。 | | | | | | |
| 事前準備 | <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|----------------|-----------------------|----|
| 1 | 歯科補綴とは | 歯科補綴の概要 | |
| 2 | 補綴歯科治療 | 歯科補綴の概要・欠損に伴う口腔内変化 | |
| 3 | 歯科補綴治療の基礎知識 | 補綴装置、歯科補綴治療の基礎知識 | |
| 4 | 補綴歯科治療の実際 | 補綴歯科治療における検査、診断 | |
| 5 | クラウン、ブリッジ治療の実際 | クラウン、ブリッジ治療の流れ① | |
| 6 | 有床義歯治療の実際 | クラウン、ブリッジ治療の流れ② | |
| 7 | インプラント治療の実際 | 有床義歯治療の流れ① | |
| 8 | 補綴歯科治療の用いられる器材 | 有床義歯治療の流れ② | |
| 9 | 補綴歯科治療における歯科技工 | インプラント治療の流れ ① | |
| 10 | 検査診断の業務 | インプラント治療の流れ ② | |
| 11 | 治療時の業務 | 特殊な口腔内装置を用いる治療 | |
| 12 | 器材管理 | 補綴歯科治療における機材の管理 | |
| 13 | まとめ | 顎関節の構造、咬合、咬合位、咬合高径、FB | |
| 14 | まとめ | ゴシックアーチ描記法、咬合器、顎関節症 | |
| 15 | 試験 | 前期試験 | |

| | | | | | | | |
|------------------|---|-----|---|-------|-------|------|----|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 1 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 講義 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 2 |
| 科目名 | 口腔外科・麻酔学 | | | 担当者 | 非常勤講師 | | |
| | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 顎・口腔粘膜疾患口腔外科・歯科麻酔 | | | 医歯薬出版 | | | |
| 科目概要 | <p>歯科医師の実務経験を活かし、歯科衛生士業務に必要な顎・口腔領域に生じる疾患の特徴、症状、診断法および治療法を解説する。また、口腔外科・歯科麻酔の臨床業務における患者管理と救急蘇生および周術期の健康管理と歯科衛生士のかかわりについて講義する。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 顎・口腔領域に生じる各種疾患を大きく分類できる。 2. 先天異常と発育異常の症状と治療法を概説できる。 3. 歯の外傷、歯槽骨及び顎骨骨折、軟組織損傷の症状と治療法を概説できる。 4. 麻酔の目的を説明できる。 | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>各期末に筆記試験を行う。また、小テスト、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をC</p> | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | <p>担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</p> | | | | | | |
| 事前準備 | <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|---------------------|---------------------------------|----|
| 1 | 口腔外科とは | 口腔外科の概要・基礎疾患と歯科治療 | |
| 2 | 歯科で問題となる 基礎疾患対応 | 顎・口腔領域の先天異常と歯の発育異常 | |
| 3 | 顎・口腔領域の 損傷機能障害 | 顎・口腔損傷および機能障害、口腔粘膜の病変 | |
| 4 | 顎・口腔領域の 疾患 | 顎・口腔領域の化膿性炎症疾患、顎骨周囲 組織の炎症 | |
| 5 | 顎・口腔領域の 疾患 | 顎・口腔領域の嚢胞性疾患 | |
| 6 | 顎・口腔領域の 腫瘍 | 腫瘍および腫瘍類似疾患、周術期の口機能管理 | |
| 7 | 唾液腺疾患 | 唾液性疾患の種類 | |
| 8 | 神経疾患 | 口腔領域の神経疾患 | |
| 9 | 口腔外科診療の 歯科衛生士の業務 | 口腔外科診療における歯科衛生士業務 | |
| 10 | 歯科麻酔 | 歯科治療における歯科麻酔 | |
| 11 | 麻酔 | 全身麻酔・術中管理について | |
| 12 | 救急蘇生 | 救急蘇生法 | |
| 13 | 口腔外科処置 | 口腔外科処置の機材管理、歯科衛生士が行うプロフェッショナルケア | |
| 14 | まとめ | まとめ | |
| 15 | 試験 | 前期試験 | |

| | | | | | | | |
|------------------|--|-----|---|------|-------|------|----|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 1 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 講義 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 2 |
| 科目名 | 小児歯科学 | | | 担当者 | 非常勤講師 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 歯科衛生士講座 小児歯科学 | | | | | | |
| 科目概要 | <p>歯科医師の実務経験を活かし、歯科衛生業務を行うために必要な小児の身体的・心理的特徴と小児の歯科治療について講義する。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <p>1.小児の正常な身体的成長発育とその障害を説明できる。 2.成人歯科と小児歯科の違いを説明できる。 3.各年齢における小児の正常な心理的成長発達とその障害を説明できる。 4.小児の先天性疾患を説明できる。</p> | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。</p> | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | <p>担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</p> | | | | | | |
| 事前準備 | <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|------------|------------------|----|
| 1 | 小児歯科とは | 小児歯科学概論 | |
| 2 | 小児と歯科治療 | 小児の特徴 | |
| 3 | 小児の歯列、咬合 | 発育段階と口腔変化 | |
| 4 | まとめ | 小児の特徴まとめ | |
| 5 | 小児における診療体系 | 小児における診療体系、診察など | |
| 6 | 小児の歯科疾患 | う蝕、歯周疾患、口腔軟組織の異常 | |
| 7 | 小児歯科診療 | 小児のう蝕、修復治療、歯内療法 | |
| 8 | まとめ | 小児歯科疾患のまとめ | |
| 9 | 小児の外傷、咬合誘導 | 外傷処置、予防、保隙の種類 | |
| 10 | まとめ | 小児の治療についてまとめ | |
| 11 | まとめ① | 全体まとめ① | |
| 12 | まとめ② | 全体まとめ② | |
| 13 | まとめ③ | 全体まとめ③ | |
| 14 | まとめ④ | 全体まとめ④ | |
| 15 | 試験 | 前期試験 | |

| | | | | | | | |
|--------------------------|--|------------|---|-------------|-------|-------------|----|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 1 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 講義 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 2 |
| 科目名 | 歯科矯正学 | | | 担当者 | 非常勤講師 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 咀嚼障害・咬合異常 | | | 医歯薬出版 | | | |
| 科目概要 | 歯科医師の実務経験を活かし、歯科衛生業務を行うために必要な不正咬合の症状および治療法について講義する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 顔面および歯・歯列の成長発育とその評価を説明できる 2. 不正咬合の原因と種類を列挙できる 3. 不正咬合による障害と矯正治療の目的を説明できる 4. 矯正治療に用いる器材とその取扱いを説明できる | | | | | | |
| 評価方法 基準 | 期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。 | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | 担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。 | | | | | | |
| 事前準備 | <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|--------------|--------------------------------|----|
| 1 | 矯正歯科治療の概論 | 歯科矯正学と治療の目的 | |
| 2 | 正常咬合と不正咬合 | 正常咬合、不正咬合の分類、原因 | |
| 3 | 矯正歯科診断 | 必要な検査、症例分析 | |
| 4 | 矯正力、顎整形力、保定 | 歯の移動、固定、器械的、機能的矯正力 | |
| 5 | 矯正装置 | 固定式矯正装置、機能的矯正装置 | |
| 6 | 矯正装置 | 拡大装置、顎外固定装置 | |
| 7 | 矯正装置 | 口腔習癖除去装置、保定装置 | |
| 8 | 上顎前突前後の関係不調和 | I 級不正, II 級不正 1 類、2 類, III 級不正 | |
| 9 | 上下顎垂直の関係不調和 | 過蓋咬合、開咬 | |
| 10 | 口腔顔面の形成異常と変形 | 口唇 ・ 口蓋裂、先天異常、顎変形症 | |
| 11 | 矯正治療時のトラブル | う蝕、歯周疾患、歯肉炎、トラブル対応、顎関節歯根吸収 | |
| 12 | 矯正歯科診療の業務 | 矯正用器具、材料の準備と取扱い | |
| 13 | 口腔保健管理 | 口腔保健管理、装置の説明、保健指導 | |
| 14 | 口腔筋機能療法 | MTF の指導法、用いる器具、効果 | |
| 15 | 試験 | 前期試験 | |

| | | | | | | | |
|--------------------------|---|------------|---|-------------|-------|-------------|----|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 1 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 講義 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 2 |
| 科目名 | 歯内療法学 | | | 担当者 | 非常勤講師 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 歯の硬組織・歯髄疾患保存修復・歯内療法 | | | 医歯薬出版 | | | |
| 科目概要 | 歯科医師の実務経験を活かし、う蝕、外傷等の硬組織疾患、それに継続して起こる歯髄疾患等の予防、治療及び研究について講義する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1.歯髄疾患、根尖性歯周組織疾患の分類と症状について理解する。 2.歯髄保存療法、歯髄の除去療法について説明できる。 3.根管治療、根管充填、歯の外傷について説明できる。 4.歯内療法における歯科衛生士の役割について説明できる。 | | | | | | |
| 評価方法 基準 | 期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。 | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | 担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。 | | | | | | |
| 事前準備 | <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|----------------------|----------------------------|----|
| 1 | 歯内療法の概要 | 歯内療法とは | |
| 2 | 歯内療法の概要 | 歯内療法領域の主な疾患の概要と原因 | |
| 3 | 歯髄保存療法 | 歯髄鎮痛消炎療法と歯髄鎮痛消炎薬 覆髄法 | |
| 4 | 歯髄の除去法 | 歯髄切断法 抜髄法 | |
| 5 | 根管治療 | 根管治療の基本概念・術式 | |
| 6 | 根管充填 | 根管充填の目的 | |
| 7 | 外科的歯内療法 | 外科的歯内療法の概要・適応症・術式 | |
| 8 | 歯の外傷 | 歯の外傷の概要・分類・処置 | |
| 9 | 歯内療法における安全対策 | 歯内治療用器具の誤嚥と気管内吸引 予防と対処法 | |
| 10 | 歯内療法における 歯科衛生士の役割 | 検査・診断時の業務 | |
| 11 | 歯内療法における 歯科衛生士の役割 | 歯髄処置時の診療補助業務 | |
| 12 | 歯のホワイトニング | ブリーチング | |
| 13 | 全体のまとめ | 全体のまとめ | |
| 14 | 全体のまとめ | 復習 | |
| 15 | 試験 | 前期試験 | |

| | | | | | | | |
|------------------|---|-----|---|------|-------|------|----|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 1 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 講義 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 2 |
| 科目名 | 歯周療法学 | | | 担当者 | 非常勤講師 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 歯周病学 医歯薬出版 | | | | | | |
| 科目概要 | <p>歯科医師の実務経験を活かし、歯科衛生業務を行うために必要な歯周組織に生じる疾患の種類、症状、診断法および治療法を解説する。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯周病の種類と症状、検査法と検査結果を説明できる。 2. 歯周治療の流れを説明できる。 3. 歯周治療の術式と適応症を説明できる。 4. 歯周外科治療の種類と適応症を説明できる。 | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。</p> | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | <p>担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</p> | | | | | | |
| 事前準備 | <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|-----------------------|----------------------|----|
| 1 | 歯周病学とは？ | 歯周病の基礎知識 | |
| 2 | 歯周疾患の現状と治療 | 歯周治療の現状と歯科衛生士の業務 | |
| 3 | 歯周組織 | 正常な歯周組織と構造と機能 | |
| 4 | 歯周疾患 | 歯周病の原因、分類 | |
| 5 | 歯周治療の実際 | 歯周治療の進め方 | |
| 6 | 歯周治療の実際 | 歯周疾患の診査 | |
| 7 | 歯周基本治療 | 歯周基本治療の目的と効果 | |
| 8 | 歯周外科治療 | 歯周外科治療の目的と効果 | |
| 9 | 歯周治療としての リハビリテーション | 歯周治療におけるリハビリテーションとは？ | |
| 10 | メンテナンス | メンテナンスの重要性とその意義 | |
| 11 | 歯周治療における 歯科衛生士業務 | 歯周治療の流れと歯科衛生士 | |
| 12 | 歯周治療における 歯科衛生士業務 | スケーリング・ルートプレーニング | |
| 13 | 歯周治療における 歯科衛生士業務 | 歯周治療用器材の滅菌、消毒、管理 | |
| 14 | まとめ | まとめ | |
| 15 | 試験 | 前期試験 | |

| | | | | | | | |
|------------------|--|-----|---|------|-------|------|----|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 1 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 講義 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 2 |
| 科目名 | 高齢者歯科学 | | | 担当者 | 非常勤講師 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 高齢者歯科 (医歯薬出版) | | | | | | |
| 科目概要 | <p>歯科医師の実務経験を活かし、全身の疾病および加齢による変化や、高齢者における経口摂取の重要性ならびに身体的、心理的特徴と歯科診療上の留意点、歯科衛生士の役割について講義する。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <p>1.高齢者の全身疾患と口腔疾患の特徴を説明できる 2.高齢者の歯科治療時における介助と安全管理を説明できる</p> | | | | | | |
| 評価方法 基準 | 定期試験の点数ならびに出席点数の合計で60点以上を合格とする。 | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | 担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。 | | | | | | |
| 事前準備 | <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|------------|-----------------------|----|
| 1 | 高齢社会と健康 | 高齢者を取りまく社会環境について | |
| 2 | 高齢者と法制度 | 高齢者にかかわる法制度について | |
| 3 | 高齢者とは | 高齢者の身体的特徴・精神的特徴について | |
| 4 | 口腔咽頭の高齢変化 | 加齢に伴う顎口腔系の変化について① | |
| 5 | 口腔咽頭の高齢変化 | 加齢に伴う顎口腔系の変化について② | |
| 6 | 高齢者に多い全身疾患 | サルコペニア、フレイルについて | |
| 7 | リスク評価と管理 | 高齢者の生活機能の評価と栄養状態について | |
| 8 | 高齢者の歯科治療 | 高齢者の歯科治療と安全性について① | |
| 9 | 高齢者の歯科治療 | 高齢者の歯科治療と安全性について② | |
| 10 | 口腔ケア | 高齢者への口腔健康管理について | |
| 11 | 口腔ケア | 有病者の口腔健康管理について | |
| 12 | 在宅訪問診療の概要 | 歯科訪問診療について | |
| 13 | 摂食・嚥下の機能 | 摂食・嚥下機能のメカニズムについて | |
| 14 | リハビリテーション | 高齢者・障害者の摂食嚥下リハビリテーション | |
| 15 | 試験 | 前期試験 | |

| | | | | | | | |
|------------------|---|-----|---|------|-------|------|----|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 1 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 講義 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 2 |
| 科目名 | 障害者歯科 | | | 担当者 | 非常勤講師 | | |
| | ☑ 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 障害者歯科 (医歯薬出版) | | | | | | |
| 科目概要 | <p>歯科医師の実務経験を活かし、スペシャルニーズのある人たちへの専門性の高い歯科医療の支援が求められるようになってきた社会変化に対応できるような、障害者への医療的、社会的、共感的理解を深めるために必要な知識について解説する。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <p>1.障がい者の歯科治療時における介助と安全管理を説明できる 2.障がいの種類・歯科的特徴および歯科保健医療の留意点を説明できる</p> | | | | | | |
| 評価方法 基準 | 定期試験の点数、小テスト、ならびに出席点数の合計で60点以上を合格とする。 | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | 担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。 | | | | | | |
| 事前準備 | <p>☑ なし ☐ あり</p> | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|-------------------------|---------------------------------|----|
| 1 | 地域における障害者歯科 | 障害者歯科と地域医療連携、保健・医療・福祉のネットワーク | |
| 2 | 障害の概念 | 障害のある人と医療、福祉制度の仕組み | |
| 3 | 歯科医療で支援が必要な疾患 | 行動障害、運動障害、精神および行動の障害 | |
| 4 | 歯科医療と行動調整 | 行動療法、体動のコントロール、薬物的行動調整法 | |
| 5 | 障害者歯科における歯科衛生過程 | 脳性麻痺患者、ダウン症候群患者 | |
| 6 | 健康支援と口腔衛生管理① | 口腔ケアへの支援、専門的口腔ケアについて | |
| 7 | 健康支援と口腔衛生管理② | 特別な配慮が必要な患者の口腔衛生管理 | |
| 8 | リスク評価と安全管理① | 障害者歯科におけるリスク評価、障害別のリスクと対応 | |
| 9 | リスク評価と安全管理② | 医療安全管理体制、感染制御体制 | |
| 10 | 摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割① | 摂食嚥下障害と栄養管理、摂食嚥下障害の評価法 | |
| 11 | 摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割② | 摂食機能療法、小児期の摂食嚥下障害への対処法 | |
| 12 | 摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割③ | 成人期、老年期の摂食嚥下障害の評価と対処法 | |
| 13 | 摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割④ | 摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士の役割と多職種連携 | |
| 14 | まとめ | まとめ | |
| 15 | 試験 | 前期試験 | |

| | | | | | | | |
|------------------|--|-----|---|------|-------|------|----|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 1 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 講義 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 15 | 対象年次 | 2 |
| 科目名 | 歯科放射線学 | | | 担当者 | 非常勤講師 | | |
| | ☐ 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 歯科放射線 医師薬出版 | | | | | | |
| 科目概要 | <p>歯科医師の実務経験を活かし、歯科衛生士業務に必要な放射線とその性質、放射線が人体へ与える影響および放射線防護について、また口内法エックス線撮影やパノラマエックス線撮影、その他画像検査方法についてと歯科衛生士の補助業務や放射線取り扱い、放射線治療についての関わりについて講義する。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科医療と放射線、エックス線画像の形成について説明できる。 2. 歯科におけるエックス線検査についてその目的や検査機種を説明できる。 3. 口内法やパノラマエックス線写真の患者誘導や位置づけについて理解し、衛生士の役割を概説できる。 4. 検査画像の保管・観察および整理について理解できる。 5. 放射線治療と口腔管理についての関わりについて理解できる。 | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>各期末に筆記試験を行う。また、授業ごとにFormsを用いた確認テストで正答率についても評価し、生徒ごとに各自苦手・正答率の低い問題について課題を提案し解決するためのレポート等を提出する。総合的に60点異常得点したものに単位を認定する。80点以上をA,70~79点をB,60~69点をCの評価とし、60点未満の生徒は再試験を課す。</p> | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | <p>担任を通じて成績優秀者を公表する。再試験対象者については、学籍番号のみを掲示する</p> | | | | | | |
| 事前準備 | <p>☐ なし ☐ あり</p> | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|--------------|--|----|
| 1 | 歯科医療と放射線 | エックス線写真および画像診断 放射線の性質や人体への影響・防護について | |
| 2 | エックス線画像の形成 | エックス線の発生 フィルムとデジタル画像の特徴 | |
| 3 | 歯科治療とエックス線検査 | 口内法撮影、パノラマエックス線撮影、 頭部規格撮影、その他の画像検査 | |
| 4 | 撮影の実際と撮影補助 | 患者の位置づけ 配慮が必要な患者の撮影 感染予防 | |
| 5 | 写真処理と画像保管 | フィルム画像の現像と定着 デジタル画像処理と規格 (DICOM) | |
| 6 | 放射線治療と口腔管理 | 放射線治療による有害事象、口腔管理 | |
| 7 | まとめ | 前期授業のフィードバック | |
| 8 | 試験 | 前期試験 | |
| 9 | | | |
| 10 | | | |
| 11 | | | |
| 12 | | | |
| 13 | | | |
| 14 | | | |
| 15 | | | |

| | | | | | | | |
|--------------------------|--|------------|---|-------------|-------|-------------|-------|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 3 | 開講時期 | 通年 | 形態 | 講義・演習 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 90 | 対象年次 | 1 |
| 科目名 | 歯科予防処置Ⅰ | | | 担当者 | 西山 裕佳 | | |
| | ☐ 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 教科書（最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置・歯科保健指導） プリント | | | | | | |
| 科目概要 | 歯科衛生士の実務経験を活かし、う蝕や歯周病などの口腔疾患及び基本的な予防のための歯石除去法などの基礎知識や術式、態度について解説する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 歯科予防処置の内容を理解する 口腔の基礎知識を理解する 歯周病の基礎知識を理解する 歯科衛生アセスメントを理解できる 検査、スケーリング、PMTC、術後洗浄について理解する | | | | | | |
| 評価方法 基準 | 期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA、70～79点B、60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。 | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | 担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。 | | | | | | |
| 事前準備 | ☐ なし ☐ あり | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|----------------------|----------------------------------|----|
| 1 | オリエンテーション | 教科書の歯科予防処置の内容を確認する | |
| 2 | 歯科予防処置の法的な位置づけ | 定義・法的な位置づけ、内容 | |
| 3 | 歯科予防処置の概要 | 歯周病の予防の概念 | |
| 4 | 口腔の基礎知識 | 正常な口腔、歯周組織 | |
| 5 | 口腔の基礎知識 | 歯冠と歯根の形態 | |
| 6 | 歯周病の基礎知識 | 口腔内の付着物と沈着物（プラーク・歯石） | |
| 7 | 歯周病の基礎知識 | 歯周病の分類、進行プロセス、起炎性因子 | |
| 8 | 歯科衛生アセスメント | 対象者・口腔内からの情報収集 | |
| 9 | 歯科衛生アセスメント | 分析のための歯数（歯周疾患指数） | |
| 10 | 歯科衛生アセスメント | 分析のためのデータ（画像） 歯周病に関連する検査 | |
| 11 | 歯科衛生介入のための 歯科予防処置 | スケーリング (手用スケーラーの構造、把持法、基本の操作) | |
| 12 | 歯科衛生介入のための 歯科予防処置 | スケーリング(基本姿勢、手首の動き) | |
| 13 | 歯科衛生介入のための 歯科予防処置 | シャープニング | |
| 14 | テスト前復習 | 前期まとめ | |
| 15 | 前期試験 | 前期で学習した歯科予防処置の内容 | |

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|----------------------|-----------------------------------|------------|
| 16 | オリエンテーション | 夏休み明け 課題の総評・前期振り返り | |
| 17 | 歯科衛生介入のための 歯科予防処置 | ①シックルスケーラー座学 | |
| 18 | 実習 | ②石膏棒にて 前腕回転運動・手根関節運動の練習 | |
| 19 | 実習 | ③石膏棒練習・テスト、 右下6 頬側に刃部をあてる | |
| 20 | 歯科衛生介入のための 歯科予防処置 | キュレットスケーラー座学 | |
| 21 | 実習 | ④①上顎3-3唇側行き 練習・テスト | 石膏棒 再試験 |
| 22 | 歯科衛生介入のための 歯科予防処置 | 超音波スケーラー座学 | |
| 23 | 実習 | ⑤②上顎3-3唇側帰り 練習・テスト 超音波スケーラーの操作 | ①再試 |
| 24 | 歯科衛生介入のための 歯科予防処置 | エアスケーラー座学 | |
| 25 | 実習 | ⑥③上顎3-3口蓋側行き 練習・テスト | ②再試 |
| 26 | 歯科衛生介入のための 歯科予防処置 | ミラーテクニック座学 | |
| 27 | 実習 | ⑦④上顎3-3口蓋側帰り 練習・テスト | ③再試 |
| 28 | 歯科衛生介入のための 歯科予防処置 | ポリッシング座学 | |
| 29 | 実習 | ⑧⑤下顎3-3唇側行き 練習・テスト ポリッシングの操作 | ④再試 |
| 30 | 歯科衛生介入のための 歯科予防処置 | 歯面清掃器・術後洗浄座学 | |

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|----------------------|--------------------------------|------|
| 31 | 実習 | ㊦⑥下顎3-3唇側帰り 練習・テスト 歯面清掃器の操作 | ⑤再試 |
| 32 | 実習 | ㊦⑦⑧下顎3-3舌側行き・帰り 練習・テスト | ⑥再試 |
| 33 | 実習 | ㊦シックル振り返り、8部位全て練習 | ⑦⑧再試 |
| 34 | 実習 | ㊦シックル8部位全て試験 他者評価 | |
| 35 | 歯科衛生介入のための 歯科予防処置 | キュレット復習 | |
| 36 | オリエンテーション | 冬休み明け シックル振り返り・キュレット復習 | |
| 37 | 実習 | ㊦①上顎3-3唇側行き 練習・テスト | |
| 38 | 実習 | ㊦②上顎3-3唇側帰り 練習・テスト | ①再試 |
| 39 | 実習 | ㊦③上顎3-3口蓋側行き 練習・テスト | ②再試 |
| 40 | 実習 | ㊦④上顎3-3口蓋側行き 練習・テスト | ③再試 |
| 41 | 実習 | ㊦⑤下顎3-3唇側行き 練習・テスト | ④再試 |
| 42 | 実習 | ㊦⑥下顎3-3唇側帰り 練習・テスト | ⑤再試 |
| 43 | 実習 | ㊦⑦下顎3-3舌側行き 練習・テスト | ⑥再試 |
| 44 | 実習 | ㊦⑧下顎3-3舌側帰り 練習・テスト | ⑦再試 |
| 45 | 試験 | 後期試験 | |

| | | | | | | | | |
|--------------------------|--|------------|---|-------------|-------------|-----------|-------------|---|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 3 | 開講時期 | 通年 | 形態 | 講義・演習 | |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | | 配当時間 | 90 | 対象年次 | 2 |
| 科目名 | 歯科予防処置Ⅱ | | | | 担当者 | 松島 真英 | | |
| | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | | |
| 使用教材 | 教科書（最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置・歯科保健指導） プリント | | | | | | | |
| 科目概要 | 歯科衛生士の実務経験を活かし、歯石除去技術を相互実習で体験させ、さらに超音波スケーラー、エアスケーラーの使用法や術前後の処置、器材の後始末、メンテナンスの手技の演習及び解説により知識の統合を図る。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 歯科予防処置の内容を理解する 口腔の基礎知識を理解する 歯周病の基礎知識を理解する 歯科衛生アセスメントを理解できる 検査、スケーリング、PMTTC、術後洗浄について理解する | | | | | | | |
| 評価方法 基準 | 期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。 | | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | | | | | | | | |
| 事前準備 | <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|-----------|------------------------------------|----|
| 1 | オリエンテーション | 1年次総復習 | |
| 2 | 実習 | ㊦キュレットスケーラー復習 ㊨右下4-7頬側行き 練習・テスト | |
| 3 | 実習 | ㊦㊩右下4-7頬側帰り 練習・テスト 中央 練習 | |
| 4 | 実習 | ㊦㊪左下4-7舌側行き 練習・テスト | |
| 5 | 実習 | ㊦㊫左下4-7舌側帰り 練習・テスト | |
| 6 | 実習 | ㊦㊬右下4-7舌側行き 練習・テスト | |
| 7 | 実習 | ㊦㊭右下4-7舌側行帰り 練習・テスト | |
| 8 | 実習 | ㊦㊮㊯左下4-7唇側行き・帰り 練習・テスト | |
| 9 | 実習 | ㊦㊰左上4-7口蓋側行き 練習・テスト | |
| 10 | 実習 | ㊦㊱左上4-7口蓋側帰り 練習・テスト | |
| 11 | 実習 | ㊦㊲㊳右上4-7頬側行き・帰り 練習・テスト | |
| 12 | 実習 | ㊦㊴㊵右上4-7口蓋側行き・帰り 練習・テスト | |
| 13 | 実習 | ㊦㊶㊷右上4-7口蓋側行き・帰り 練習・テスト | |
| 14 | 実習 | ㊦㊸㊹左上頬側4-7頬側行き・帰り 練習・テスト | |
| 15 | 試験 | 前期試験 | |

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|---------|----------------------|----|
| 16 | 実習 | 相互実習 PMTC | |
| 17 | 実習 | 相互実習 PMTC | |
| 18 | 相互実習前学習 | 相互実習について(プロービング・動揺度) | |
| 19 | 実習 | 相互実習 プロービング・動揺度 | |
| 20 | 実習 | 相互実習 プロービング・動揺度 | |
| 21 | 相互実習前学習 | 相互実習について(超音波スケーリング) | |
| 22 | 実習 | 相互実習 超音波スケーリング | |
| 23 | 実習 | 相互実習 超音波スケーリング | |
| 24 | 実習 | 相互実習 PMTC | |
| 25 | 実習 | 相互実習 PMTC | |
| 26 | 実習 | 相互実習 プロービング・動揺度 | |
| 27 | 実習 | 相互実習 プロービング・動揺度 | |
| 28 | 実習 | 相互実習 超音波スケーリング | |
| 29 | 実習 | 相互実習 超音波スケーリング | |
| 30 | 試験 | 後期試験 | |

| | | | | | | | |
|--------------------------|--|------------|---|-------------|-------|-------------|-------|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 1 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 講義・演習 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 3 |
| 科目名 | 歯科予防処置Ⅲ | | | 担当者 | 西山 裕佳 | | |
| | ☐ 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 教科書（最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置・歯科保健指導） プリント | | | | | | |
| 科目概要 | 歯科衛生士の実務経験を活かし、歯周組織および歯周病の基本的知識に基づいて、歯周病予防・治療時に必要な歯石除去法の基本技術についての演習および解説により知識の統合を図る。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1.歯・口腔の健康状態の把握ができるようになる 2.歯周病と全身疾患の関連、リスクについて説明できる。 3.歯・歯周組織の検査方法を身に付ける。 | | | | | | |
| 評価方法 基準 | 期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。 | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | 担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。 | | | | | | |
| 事前準備 | ☐ なし ☐ あり | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|----------------------|------------------------|----|
| 1 | 総論 概要 | 歯科予防処置の範囲と業務 | |
| 2 | 総論 概要 | 歯周病予防 | |
| 3 | 総論 概要 | う蝕予防 | |
| 4 | 総論 対象者の把握 | 全身疾患・生活習慣 | |
| 5 | 総論 対象者の把握 | ライフステージの特徴 | |
| 6 | 総論 歯・口腔の健康状態の把握 | 歯・歯周組織 | |
| 7 | 総論 歯・口腔の健康状態の把握 | 付着物・沈着物 | |
| 8 | 歯周病予防処置 基礎知識 | 歯周病と生活習慣の関連 | |
| 9 | 歯周病予防処置 基礎知識 | 歯周病と全身疾患の関連 | |
| 10 | 歯周病予防処置 基礎知識 | 歯周病のリスク | |
| 11 | 歯周病予防処置 歯・歯周組織の検査 | プロービング① ポケットデプス | |
| 12 | 歯周病予防処置 歯・歯周組織の検査 | プロービング② アタッチメントレベル | |
| 13 | 歯周病予防処置 歯・歯周組織の検査 | プロービング③ BOP・GBI・根分岐部病変 | |
| 14 | 歯周病予防処置 歯・歯周組織の検査 | 歯肉の炎症の評価・プラーク、歯石の検査 | |
| 15 | 試験 | 前期試験 | |

| | | | | | | | | |
|--------------------------|--|------------|---|-------------|-------------|-----------|-------------|---|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 2 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 講義 | |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 1 |
| 科目名 | 齲蝕予防処置（講義） | | | | 担当者 | 松島 真英 | | |
| | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | | |
| 使用教材 | 歯科予防処置・歯科保健指導（医歯薬出版） | | | | | | | |
| 科目概要 | 歯科衛生士の実務経験を活かし、口腔の基礎知識や齲蝕の因子などについて講義する。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 1.口腔の構造、歯冠と歯根の形態について説明できる。 2.う蝕の分類と原因、唾液の機能について説明できる。 3.う蝕活動性試験の意義・条件・目的について説明できる。 | | | | | | | |
| 評価方法 基準 | 期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。 | | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | 担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。 | | | | | | | |
| 事前準備 | <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|-------------------------|-------------------|----|
| 1 | 歯科予防処置の概論 | 薬物の塗布 | |
| 2 | 予防の概念 | う蝕の予防レベル | |
| 3 | 正常な口腔 | 口腔の構造 | |
| 4 | 正常な口腔 | 歯冠と歯根の形態 | |
| 5 | う蝕の基礎知識 | う蝕とは | |
| 6 | う蝕の基礎知識 | う蝕の分類と原因 | |
| 7 | 食生活指導の基礎 | 食品とう蝕誘発性 | |
| 8 | 食生活指導の基礎 | 代用甘味料 | |
| 9 | 唾液の主な成分と働き | 唾液の機能 | |
| 10 | 齶蝕活動性試験 (カリエスリスクテスト) | う蝕活動性試験とは | |
| 11 | 齶蝕活動性試験 (カリエスリスクテスト) | う蝕活動性試験の意義・条件・目的 | |
| 12 | 齶蝕活動性試験 (カリエスリスクテスト) | う蝕活動性試験 (実習) | |
| 13 | う蝕の表現方法 | う蝕指数の求め方 | |
| 14 | う蝕の表現方法 | 学校保健安全法に基づく歯科健康診断 | |
| 15 | 試験 | 前期試験 | |

| | | | | | | | | |
|------------------|--|-----|---|------|------|-------|-------|---|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 1 | 開講時期 | 後期 | 形態 | 講義・演習 | |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 1 |
| 科目名 | 齲蝕予防処置（演習） | | | | 担当者 | 松島 真英 | | |
| | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | | |
| 使用教材 | 歯科予防処置・歯科保健指導（医歯薬出版） | | | | | | | |
| 科目概要 | <p>歯科衛生士の実務経験を活かし、齲蝕予防に必要な知識に基づいて、フッ化物応用法・小窩裂溝填塞法・齲蝕活動性試験の技術の演習および、フッ素洗口法の指導方法についての解説により知識の統合を図る。</p> | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1.歯科衛生過程について理解する 2.フッ化物応用についての基礎知識と手法を身に付ける 3.小窩裂溝填塞についての基礎知識と手法を身に付ける | | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。</p> | | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | <p>担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</p> | | | | | | | |
| 事前準備 | <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|------------|------------------|----|
| 1 | 歯科衛生過程の進め方 | 歯科衛生アセスメント | |
| 2 | 歯科衛生過程の進め方 | 歯科衛生過程の展開例 | |
| 3 | 歯科衛生過程の進め方 | 情報収集と情報処理 | |
| 4 | 歯科衛生過程の進め方 | 問題の明確化・優先順位の決定 | |
| 5 | 歯科衛生過程の進め方 | 優先順位・目標・介入方法の決定 | |
| 6 | フッ化物応用 | フッ化物の基礎 | |
| 7 | フッ化物応用 | フッ化物歯面塗布法 | |
| 8 | フッ化物応用 | フッ化物洗口法 | |
| 9 | フッ化物応用 | フッ化物塗布（実習） | |
| 10 | フッ化物応用 | フッ化物洗口（実習） | |
| 11 | 小窩裂溝填塞 | 小窩裂溝填塞の術式 | |
| 12 | 小窩裂溝填塞 | 器具・薬剤の取り扱い方と管理方法 | |
| 13 | 小窩裂溝填塞 | 小窩裂溝填塞（実習） | |
| 14 | 臨床における活動 | う蝕（小児） | |
| 15 | 試験 | 後期試験 | |

| | | | | | | | | |
|--------------------------|--|------------|---|-------------|-------------|-----------|-------------|---|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 3 | 開講時期 | 通年 | 形態 | 講義・演習 | |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | | 配当時間 | 90 | 対象年次 | 1 |
| 科目名 | 歯科保健指導Ⅰ | | | | 担当者 | 金子 聖美 | | |
| | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | | |
| 使用教材 | 教科書（最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置・歯科保健指導） プリント | | | | | | | |
| 科目概要 | <p>歯科衛生士の実務経験を活かし、各ライフステージにおける歯科衛生介入についてや、個人を対象とした歯科保健指導法の演習および基礎知識,また、口腔内ブラッシング方法や歯磨剤について演習および解説を行い知識の統合を図る。</p> | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1.健康の概念・健康増進施策について説明できる。 2.口腔の基礎知識について理解を深める。 3.各ライフステージにおける歯科衛生活動の展開について理解する。 | | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。</p> | | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | <p>担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</p> | | | | | | | |
| 事前準備 | <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|----------------|------------------------|----|
| 1 | I 総論 | オリエンテーション 歯科保健指導の定義 | |
| 2 | I 総論 | 歯科保健指導の考え方・内容 | |
| 3 | I 総論 | 健康の概念・健康増進施策 | |
| 4 | I 総論 | 歯科衛生介入の見学（2年生） | |
| 5 | II 歯科保健指導の基礎知識 | 口腔の基礎知識（正常な口腔） | |
| 6 | II 歯科保健指導の基礎知識 | 口腔の基礎知識（口腔の機能） | |
| 7 | II 歯科保健指導の基礎知識 | う蝕と歯周病 | |
| 8 | III 歯科保健指導各論 | 口腔内の情報収集 | |
| 9 | III 歯科保健指導各論 | 歯科衛生介入（ブラッシング） | |
| 10 | III 歯科保健指導各論 | 歯科衛生介入（歯磨剤・洗口液） | |
| 11 | III 歯科保健指導各論 | 歯科衛生介入（その他の清掃方法） | |
| 12 | III 歯科保健指導各論 | ブラッシング実習 | |
| 13 | III 歯科保健指導各論 | 歯科衛生介入（ブラッシング方法） | |
| 14 | III 歯科保健指導各論 | その他の清掃用具実習 | |
| 15 | 試験 | 前期試験 | |

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|-------------|------------------|----|
| 16 | Ⅲ 歯科保健指導各論 | 分析のためのデータ① | |
| 17 | Ⅲ 歯科保健指導各論 | 分析のためのデータ② | |
| 18 | Ⅲ 歯科保健指導各論 | 染め出し・PCR実習 | |
| 19 | Ⅲ 歯科保健指導各論 | 染め出し・PCR実習 | |
| 20 | Ⅲ 歯科保健指導各論 | 喫煙者に対する指導 | |
| 21 | Ⅳ 歯科衛生活動の展開 | ライフステージ（妊産婦期） | |
| 22 | Ⅳ 歯科衛生活動の展開 | ライフステージ（新生児・乳児期） | |
| 23 | Ⅳ 歯科衛生活動の展開 | ライフステージ（離乳期） | |
| 24 | Ⅳ 歯科衛生活動の展開 | ライフステージ（幼児期） | |
| 25 | Ⅳ 歯科衛生活動の展開 | グループ発表 | |
| 26 | Ⅳ 歯科衛生活動の展開 | ライフステージ（学齢期） | |
| 27 | Ⅳ 歯科衛生活動の展開 | ライフステージ（青年期） | |
| 28 | Ⅳ 歯科衛生活動の展開 | ライフステージ（成人期） | |
| 29 | Ⅳ 歯科衛生活動の展開 | グループ発表 | |
| 30 | 試験 | 後期試験 | |

| | | | | | | | |
|------------------|--|-----|---|------|-------|------|----|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 2 | 開講時期 | 通年 | 形態 | 講義 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 60 | 対象年次 | 2 |
| 科目名 | 歯科保健指導Ⅱ | | | 担当者 | 金子 聖美 | | |
| | ☐ 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 教科書（最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置・歯科保健指導） プリント | | | | | | |
| 科目概要 | <p>歯科衛生士の実務経験を活かし、小学校や市町村保健センターなどでの指導を行えるよう練習を行い、対象別・症例別歯科保健指導を実施する。また、ライフスタイルにあった生涯を通じた口腔保健管理のための基礎知識を解説し、知識の統合を図る。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1.各ライフステージ別の一般的特徴と口腔の特徴及び歯科保健行動を説明できる 2.適切な指標を用いて口腔の状況を診査し、評価できる 3.各ライフステージ別の口腔清掃の指導ができる | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA、70～79点B、60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。</p> | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | <p>担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</p> | | | | | | |
| 事前準備 | <p>☐ なし ☐ あり</p> | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|---------------|------------------|----|
| 1 | 1年次の振り返り | 1年生での振り返り試験（復習） | |
| 2 | Ⅱ 歯科保健指導の基礎知識 | 食生活指導の基礎 | |
| 3 | Ⅱ 歯科保健指導の基礎知識 | う蝕誘発性 | |
| 4 | Ⅱ 歯科保健指導の基礎知識 | 咀嚼と食品 | |
| 5 | Ⅲ 歯科保健指導各論 | 食生活指導の進め方 | |
| 6 | Ⅲ 歯科保健指導各論 | 歯科医院における食生活指導 | |
| 7 | Ⅲ 歯科保健指導各論 | シュガーコントロール | |
| 8 | Ⅲ 歯科保健指導各論 | グループワーク（献立・役割分担） | |
| 9 | Ⅲ 歯科保健指導各論 | 噛むことを考えた調理実習 | |
| 10 | Ⅲ 歯科保健指導各論 | 噛むことを考えた調理実習 | |
| 11 | Ⅲ 歯科保健指導各論 | 喫煙者に対する指導（演習） | |
| 12 | Ⅲ 歯科保健指導各論 | 歯科衛生過程 | |
| 13 | Ⅲ 歯科保健指導各論 | 歯科衛生過程 | |
| 14 | Ⅲ 歯科保健指導各論 | 歯科衛生過程（演習） | |
| 15 | 試験 | 前期試験 | |

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|---------------|-----------------|----|
| 16 | Ⅳ 歯科衛生活動の展開 | ライフステージ（高齢者） | |
| 17 | Ⅳ 歯科衛生活動の展開 | ライフステージ（障害者） | |
| 18 | Ⅳ 歯科衛生活動の展開 | グループ発表・演習 | |
| 19 | Ⅳ 歯科衛生活動の展開 | グループ発表・演習 | |
| 20 | Ⅳ 歯科衛生活動の展開 | 幼児への指導（演習） | |
| 21 | Ⅳ 歯科衛生活動の展開 | 幼児への指導（演習） | |
| 22 | Ⅳ 歯科衛生活動の展開 | 幼児への指導（演習） | |
| 23 | Ⅱ 歯科保健指導の基礎知識 | 行動変容とそのステップ | |
| 24 | Ⅱ 歯科保健指導の基礎知識 | 行動変容とそのステップ（演習） | |
| 25 | Ⅲ 歯科保健指導各論 | ブラッシング指導（演習） | |
| 26 | Ⅲ 歯科保健指導各論 | ブラッシング指導（演習） | |
| 27 | Ⅲ 歯科保健指導各論 | 術者磨きについて | |
| 28 | Ⅲ 歯科保健指導各論 | 術者磨きについて実習 | |
| 29 | Ⅲ 歯科保健指導各論 | 術者磨きについて実習 | |
| 30 | 試験 | 後期試験 | |

| | | | | | | | | |
|------------------|--|-----|---|------|------|-------|-------|---|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 1 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 講義・演習 | |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 3 |
| 科目名 | 歯科保健指導Ⅲ | | | | 担当者 | 金子 聖美 | | |
| | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | | |
| 使用教材 | 教科書（最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置・歯科保健指導） プリント | | | | | | | |
| 科目概要 | <p>歯科衛生士の実務経験を活かし、健康と疾病の概念や、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度についての演習および解説により知識の統合を図る。</p> | | | | | | | |
| 到達目標 | <p>① 口腔健康管理を行うための歯科衛生介入計画を立案できる。 ② 口腔健康管理に関する清掃用具を説明できる。 ③ 歯磨剤・洗口剤・保湿剤の特徴を説明できる。</p> | | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。</p> | | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | <p>担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</p> | | | | | | | |
| 事前準備 | <p><input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり</p> | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|------------------|---------------------|----|
| 1 | 総論 概要 | 歯科保健指導の意義と目的 | |
| 2 | 総論 概要 | 歯科保健指導・健康教育の進め方 | |
| 3 | 総論 概要 | 業務記録 | |
| 4 | 総論 基礎知識 | 信頼関係の構築・保健行動と行動変容 | |
| 5 | 情報収集 個人 | 全身的な健康状態の把握 | |
| 6 | 情報収集 個人 | 認知及び精神状態の把握・生活習慣の把握 | |
| 7 | 情報収集 個人 | 口腔器質的、機能的問題の把握 | |
| 8 | 情報収集 集団・組織・地域 | 集団・組織・地域の理解 | |
| 9 | 口腔衛生管理 基礎知識 | 口腔清掃用具 | |
| 10 | 口腔衛生管理 基礎知識 | 歯磨剤・洗口剤・保湿剤 | |
| 11 | 口腔衛生管理 指導の要点 | 口腔衛生状態 | |
| 12 | 口腔衛生管理 指導の要点 | 指導内容 | |
| 13 | 口腔衛生管理 対象者の指導 | ライフステージに対応した指導 | |
| 14 | 口腔衛生管理 対象者の指導 | 口腔状況に応じた指導 | |
| 15 | 試験 | 前期試験 | |

| | | | | | | | |
|--------------------------|--|------------|---|-------------|-------|-------------|-------|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 1 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 講義・演習 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 2 |
| 科目名 | 集団の指導法Ⅰ | | | 担当者 | 金子 聖美 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 臨地実習HANDBOOK (クインテッセンス出版) | | | | | | |
| 科目概要 | <p>歯科衛生士の実務経験を活かし、保健指導で学んだ内容を基礎とした、幼児、小学生、中学生へのブラッシング指導の進め方や指導法について演習および講義を行い、知識の統合を図る。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康教育の対象と場の特徴を説明できる。 2. 集団・組織・地域の実態が把握できる。 3. 健康教育の計画立案ができる。 4. 保育所、幼稚園（乳幼児）の口腔保健の実態が把握できる。 5. 保育所、幼稚園（乳幼児）を対象とした健康教育ができる。 | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。</p> | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | <p>担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</p> | | | | | | |
| 事前準備 | <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|--------|--------------|----|
| 1 | 事前学習 | 幼児期について・指導内容 | |
| 2 | 歯科衛生教育 | グループでの話し合い | |
| 3 | 歯科衛生教育 | 台本作成 | |
| 4 | 歯科衛生教育 | 台本完成 | |
| 5 | 歯科衛生教育 | 媒体づくり① | |
| 6 | 歯科衛生教育 | 媒体づくり② | |
| 7 | 歯科衛生教育 | 媒体完成 | |
| 8 | 歯科衛生教育 | 練習 | |
| 9 | 歯科衛生教育 | 教員発表 | |
| 10 | 歯科衛生教育 | 修正・練習 | |
| 11 | 歯科衛生教育 | 練習 | |
| 12 | 歯科衛生教育 | 発表 | |
| 13 | 歯科衛生教育 | 練習・準備 | |
| 14 | 臨地実習 | 幼稚園・保育園 | |
| 15 | 評価 | 自己評価・グループ評価 | |

| | | | | | | | | |
|------------------|--|-----|---|------|------|-------|-------|---|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 1 | 開講時期 | 後期 | 形態 | 講義・演習 | |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 2 |
| 科目名 | 集団の指導法Ⅱ | | | | 担当者 | 金子 聖美 | | |
| | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | | |
| 使用教材 | 臨地実習HANDBOOK (クインテッセンス出版) | | | | | | | |
| 科目概要 | <p>歯科衛生士の実務経験を活かし、集団を対象とした歯科保健教育の特徴や、対象別の歯科保健教育計画の立案方法、実施方法、教育媒体の作成方法について演習及び解説を行い知識の統合を図る。</p> | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1.健康教育の内容を説明できる。 2.健康教育活動の工夫と留意点を説明できる。 3.小学校（児童）の口腔保健の実態が把握できる。 4.小学校（児童）を対象とした健康教育ができる。 | | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。</p> | | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | <p>担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</p> | | | | | | | |
| 事前準備 | <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|--------|--------------|----|
| 1 | 事前学習 | 学童期について・指導内容 | |
| 2 | 歯科衛生教育 | グループでの話し合い | |
| 3 | 歯科衛生教育 | 台本作成 | |
| 4 | 歯科衛生教育 | 台本完成 | |
| 5 | 歯科衛生教育 | 媒体づくり① | |
| 6 | 歯科衛生教育 | 媒体づくり② | |
| 7 | 歯科衛生教育 | 媒体完成 | |
| 8 | 歯科衛生教育 | 練習 | |
| 9 | 歯科衛生教育 | 教員発表 | |
| 10 | 歯科衛生教育 | 修正・練習 | |
| 11 | 歯科衛生教育 | 練習 | |
| 12 | 歯科衛生教育 | 発表 | |
| 13 | 歯科衛生教育 | 練習・準備 | |
| 14 | 臨地実習 | 幼稚園・保育園 | |
| 15 | 評価 | 自己評価・グループ評価 | |

| | | | | | | | | |
|------------------|---|-----|---|------|------|-------|-------|---|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 1 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 講義・演習 | |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 3 |
| 科目名 | 集団の指導法Ⅲ | | | | 担当者 | 金子 聖美 | | |
| | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | | |
| 使用教材 | 臨地実習HANDBOOK (クインテッセンス出版) | | | | | | | |
| 科目概要 | <p>歯科衛生士の実務経験を活かし、地域歯科保健の概要、対象者の年齢や環境における個人及び集団に適する口腔衛生指導、メンテナンス管理法、指導案作成の知識、技術について演習および解説を行い、知識の統合を図る。</p> | | | | | | | |
| 到達目標 | <p>1.健康教育の内容を説明できる。 2.健康教育活動の工夫と留意点を説明できる。 3. 中学校（生徒）の口腔保健の実態が把握できる。 4. 中学校（生徒）を対象とした健康教育ができる。</p> | | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。</p> | | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | <p>担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</p> | | | | | | | |
| 事前準備 | <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|--------|--------------|----|
| 1 | 事前学習 | 学童期について・指導内容 | |
| 2 | 歯科衛生教育 | グループでの話し合い | |
| 3 | 歯科衛生教育 | 台本作成 | |
| 4 | 歯科衛生教育 | 台本完成 | |
| 5 | 歯科衛生教育 | 媒体づくり① | |
| 6 | 歯科衛生教育 | 媒体づくり② | |
| 7 | 歯科衛生教育 | 媒体完成 | |
| 8 | 歯科衛生教育 | 練習 | |
| 9 | 歯科衛生教育 | 教員発表 | |
| 10 | 歯科衛生教育 | 修正・練習 | |
| 11 | 歯科衛生教育 | 練習 | |
| 12 | 歯科衛生教育 | 発表 | |
| 13 | 歯科衛生教育 | 練習・準備 | |
| 14 | 臨地実習 | 幼稚園・保育園 | |
| 15 | 評価 | 自己評価・グループ評価 | |

| | | | | | | | | |
|------------------|---|-----|---|------|------|-------|------|---|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 1 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 講義 | |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 2 |
| 科目名 | 摂食嚥下リハビリテーション | | | | 担当者 | 非常勤講師 | | |
| | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | | |
| 使用教材 | 歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版 | | | | | | | |
| 科目概要 | <p>歯科医師の実務経験を活かし、治す治療から治し支える治療へと変化してきている歯科医療の概要について、また歯科衛生士の専門的な摂食嚥下リハビリテーションと口腔ケアの方法について講義する。</p> | | | | | | | |
| 到達目標 | 摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士の専門性を高める | | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。</p> | | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | 教科書をベースとした講義 | | | | | | | |
| 事前準備 | <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 教科書の予習・復習 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|----|---|----|
| 1 | | 歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション リハビリテーションと摂食嚥下リハビリテーション | |
| 2 | | 摂食嚥下障害患者への口腔管理と制度の理解 | |
| 3 | | 摂食嚥下機能のメカニズム | |
| 4 | | 摂食嚥下機能のメカニズム | |
| 5 | | 咬合および咀嚼機能の管理と評価 | |
| 6 | | 栄養管理 | |
| 7 | | リスクマネジメント | |
| 8 | | 病態別摂食嚥下障害 | |
| 9 | | 病態別摂食嚥下障害 | |
| 10 | | 摂食嚥下の評価 | |
| 11 | | 摂食嚥下リハビリテーションと口腔衛生管理 | |
| 12 | | 摂食嚥下訓練 | |
| 13 | | 摂食嚥下訓練 | |
| 14 | | 歯科衛生士が行う摂食嚥下リハビリテーションの基本 | |
| 15 | 試験 | 前期試験 | |

| | | | | | | | | |
|--------------------------|--|------------|---|-------------|-------------|-----------|-------------|---|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 3 | 開講時期 | 通年 | 形態 | 講義・演習 | |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | | 配当時間 | 90 | 対象年次 | 1 |
| 科目名 | 歯科診療補助Ⅰ | | | | 担当者 | 阿部 博美 | | |
| | ☐ 実務経験のある教員による授業 | | | | | | | |
| 使用教材 | 教科書（最新 歯科衛生士教本 歯科診療補助論・歯科材料・歯科機器） プリント | | | | | | | |
| 科目概要 | <p>歯科衛生士の実務経験を活かし、術者と補助者の位置や姿勢、薬品管理方法、感染予防、器具の消毒や滅菌の知識、歯科材料の知識、患者誘導方法などの基礎知識について演習および講義を行い知識の統一を図る。</p> | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科診療補助の概念について理解する 2. 医療安全と感染予防について説明できる 3. 歯科診療における基礎知識を身に付ける 4. 歯科材料について説明できる | | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。</p> | | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | <p>担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</p> | | | | | | | |
| 事前準備 | <p>☐ なし ☐ あり</p> | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|-----------------|---------------------------------------|----|
| 1 | 2章 医療安全と感染予防 | ④歯科医療における感染予防策(手指消毒・マスク・グローブ) | |
| 2 | 1章 歯科診療補助の概念 | ①診療の補助とは ②診療の補助の範囲 | |
| 3 | 2章 医療安全と感染予防 | ①医療安全 ②KYT | |
| 4 | 2章 医療安全と感染予防 | ③感染予防(感染経路・感染予防策・リスクアセスメント) | |
| 5 | 2章 医療安全と感染予防 | ⑤滅菌と消毒(滅菌消毒の定義・滅菌方法) | |
| 6 | 2章 医療安全と感染予防 | ⑤滅菌と消毒(消毒方法) | |
| 7 | 2章 医療安全と感染予防 | <実習> 手洗い | |
| 8 | 2章 医療安全と感染予防 | ⑥廃棄物の取り扱い | |
| 9 | 3章 歯科診療における基礎知識 | ①歯科診療室の基礎知識(ユニット・切削装置・基本セット等) | |
| 10 | 3章 歯科診療における基礎知識 | ②歯科診療所における受診の流れ ③共同動作(概念・ポジショニング等) | |
| 11 | 3章 歯科診療における基礎知識 | ③共同動作(ハキュムテクニック・スリウェイリッジテクニック) | |
| 12 | 3章 歯科診療における基礎知識 | <実習> ハキュム・スリウェイリッジテクニック | |
| 13 | 3章 歯科診療における基礎知識 | ④ラバーダム防湿法(目的・器具の名称と用途・手順) | |
| 14 | 3章 歯科診療における基礎知識 | <実習> ラバーダム防湿法 | |
| 15 | 試験 | 前期試験 | |

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|-----------------|---------------------------|----|
| 16 | 3章 歯科診療における基礎知識 | ⑤歯肉圧排(方法・薬剤の種類・手順) | |
| 17 | 3章 歯科診療における基礎知識 | <実習> 歯肉圧排 | |
| 18 | 5章 歯科診療で扱う歯科材料 | 所要性質・基本的性質 | |
| 19 | 5章 歯科診療で扱う歯科材料 | 練和・接着・取り扱い | |
| 20 | 印象材 | 基礎知識・種類・用途・分類・トレー | |
| 21 | 印象材 | 印象用トレー・印象材の消毒・嘔吐反射に対する対応 | |
| 22 | 印象材(アルジネート印象材) | 基礎知識・用途・特徴 | |
| 23 | 印象材(アルジネート印象材) | <実習> アルジネート印象材：顎模型(片顎トレー) | |
| 24 | 印象材(アルジネート印象材) | <実習> アルジネート印象材：顎模型(片顎トレー) | |
| 25 | 印象材(寒天印象材) | 基礎知識・用途・特徴 | |
| 26 | 印象材(寒天印象材) | <実習> 寒天+アルジ連合印象採得+歯肉圧排 | |
| 27 | 印象材(寒天印象材) | <実習> 寒天+アルジ連合印象採得+歯肉圧排 | |
| 28 | 印象材(合成ゴム質材) | 基礎知識・用途・特徴 | |
| 29 | 印象材(合成ゴム質材) | <実習> シリコーンゴム印象材 | |
| 30 | 印象材(合成ゴム質材) | <実習> シリコーンゴム印象材 | |

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|---------|-----------------------------------|----|
| 31 | その他の印象材 | モデリングコンパウンド・酸化亜鉛ユージノール印象材 | |
| 32 | 印象材まとめ | 復習プリント | |
| 33 | 模型用材料 | 基礎知識・種類・用途・取り扱い | |
| 34 | 模型用材料 | <実習> アルジネート印象材：顎模型(回転トレー) | |
| 35 | 模型用材料 | <実習> 石膏注入(普通石膏) | |
| 36 | 合着材・接着材 | 基礎知識・種類・用途・取り扱い | |
| 37 | 合着材・接着材 | リン酸亜鉛セメント・ポリカルボキシレートセメント | |
| 38 | 合着材・接着材 | ガラスアイオノマーセメント(従来型・レジン添加型) | |
| 39 | 合着材・接着材 | 接着性レジンセメント(MMA系・コンポジットレジン系) | |
| 40 | 合着材・接着材 | <実習> 合着材(リン酸・カルボ・アイノマー) | |
| 41 | 合着材・接着材 | <実習> 合着材(リン酸・カルボ・アイノマー) | |
| 42 | 仮封材 | 基礎知識・種類・用途・取り扱い | |
| 43 | 仮封材 | <実習> 仮封材(ストップング・軟質レジン・水硬性・ユージノール) | |
| 44 | 仮封材 | <実習> 仮封材(ストップング・軟質レジン・水硬性・ユージノール) | |
| 45 | 試験 | 後期試験 | |

| | | | | | | | | |
|------------------|---|-----|---|------|------|-------|-------|---|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 3 | 開講時期 | 通年 | 形態 | 講義・演習 | |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | | 配当時間 | 90 | 対象年次 | 2 |
| 科目名 | 歯科診療補助Ⅱ | | | | 担当者 | 阿部 博美 | | |
| | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | | |
| 使用教材 | 歯科機器 (医歯薬出版) | | | | | | | |
| 科目概要 | <p>歯科衛生士の実務経験を活かし、歯科診療処置内容やその準備、術式の流れに沿った使用機材の受渡法、診療中の患者の対応、処置後の患者指導及び器材の後始末などの知識・技術について演習および講義を行い、知識の統一を図る。</p> | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1.成形歯冠修復材、暫間修復材と仮着用セメントについて理解し手法を身に付ける 2.滅菌消毒法・器具器材の管理方法などを身に付ける 3.歯科診療の補助に対応するために、歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および標準的な使用法を習得する | | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。</p> | | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | <p>担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</p> | | | | | | | |
| 事前準備 | <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|---------------|-----------------------------|----|
| 1 | ワックス | 基礎知識・種類・用途 | |
| 2 | 成形歯冠修復材 | 基礎知識・種類・用途 | |
| 3 | 成形歯冠修復材 | コンポジットレジン・接着システム | |
| 4 | 成形歯冠修復材 | <実習> 成形歯冠修復材(コンポジットレジン) | |
| 5 | 成形歯冠修復材 | <実習> 成形歯冠修復材(コンポジットレジン) | |
| 6 | 成形歯冠修復材 | ガラスアイオノマーセメント・隔壁法 | |
| 7 | 成形歯冠修復材 | <実習> 隔壁法 | |
| 8 | 成形歯冠修復材 | <実習> 隔壁法 | |
| 9 | 暫間修復材と仮着用セメント | 用途・種類・方法 | |
| 10 | 暫間修復材と仮着用セメント | <実習> 暫間修復材(印象法・既製冠) | |
| 11 | 暫間修復材と仮着用セメント | <実習> 暫間修復材(印象法・既製冠) | |
| 12 | 相互実習室のオリエン | 相互実習事前学習 | |
| 13 | 相互実習室のオリエン | <実習> ユニットの使い方・滅菌消毒法・器具器材の管理 | |
| 14 | 相互実習室のオリエン | <実習> ユニットの使い方・滅菌消毒法・器具器材の管理 | |
| 15 | 試験 | 前期試験 | |

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|----------|----------------------------------|----|
| 16 | 共同動作 | <相互実習> ポジショニング・ライティング・パキューム・受け渡し | |
| 17 | 局所麻酔 | 基礎知識・種類・応用と使用法・注意事項 | |
| 18 | 印象採得 | <実習> 印象採得の練習(マネキン) | |
| 19 | 印象採得 | <実習> 印象採得の練習(マネキン) | |
| 20 | 印象採得 | <相互実習> 印象採得(片顎・回転トレー) | |
| 21 | 印象採得 | <相互実習> 印象採得(片顎・回転トレー) | |
| 22 | 印象採得 | <相互実習> 印象採得(全部顎トレー) | |
| 23 | 印象採得 | <相互実習> 印象採得(全部顎トレー) | |
| 24 | 印象採得 | <相互実習> 印象採得(全部顎トレー) | |
| 25 | 印象採得 | <相互実習> 印象採得(全部顎トレー) | |
| 26 | うがーダム防湿 | <相互実習> うがーダム防湿 | |
| 27 | うがーダム防湿 | <相互実習> うがーダム防湿 | |
| 28 | 口腔内写真 | 基礎・用途 | |
| 29 | 実技試験オリエン | 実技試験の内容・評価のポイント | |
| 30 | まとめ | まとめ | |

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|-----------|------------------------|----|
| 31 | 歯科臨床と診療補助 | ①歯冠修復時の診療補助 | |
| 32 | 歯科臨床と診療補助 | ②歯内療法時の診療補助 | |
| 33 | 歯科臨床と診療補助 | ③歯周外科治療の診療補助 | |
| 34 | 歯科臨床と診療補助 | ④補綴治療時の診療補助 | |
| 35 | 歯科臨床と診療補助 | ⑤口腔外科治療時の診療補助 | |
| 36 | 歯科臨床と診療補助 | ⑥歯科麻酔時の診療補助 | |
| 37 | 歯科臨床と診療補助 | ⑦矯正治療時の診療補助 | |
| 38 | 歯科臨床と診療補助 | ⑧小児歯科治療時の診療補助 | |
| 39 | 石膏模型作成 | <相互実習> 印象採得・模型作り・トリミング | |
| 40 | 石膏模型作成 | <相互実習> 印象採得・模型作り・トリミング | |
| 41 | 石膏模型作成 | <相互実習> 印象採得・模型作り・トリミング | |
| 42 | 口腔内写真 | 方法・手順 | |
| 43 | 口腔内写真 | <相互実習> 口腔内写真撮影 | |
| 44 | 口腔内写真 | <相互実習> 口腔内写真撮影 | |
| 45 | 試験 | 後期試験 | |

| | | | | | | | |
|------------------|--|-----|---|------|-------|------|----|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 1 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 講義 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 3 |
| 科目名 | 歯科診療補助Ⅲ | | | 担当者 | 阿部 博美 | | |
| | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 歯科診療補助 医歯薬出版 | | | | | | |
| 科目概要 | <p>歯科衛生士の実務経験を活かし、さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応できる、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を解説する。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <p>1.患者への対応、診療設備の管理方法を身に付ける 2.医療安全管理、消毒・滅菌について説明できる 3.歯科診療の補助に対応するために、歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および標準的な使用法を習得する</p> | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70~79点B, 60~69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。</p> | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | <p>担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</p> | | | | | | |
| 事前準備 | <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|-----------------------------|----------------------------------|----|
| 1 | 総論 概要・情報収集 | 歯科診療補助の範囲と業務・チーム歯科医療の考え方 | |
| 2 | 総論 患者への対応 | 一般的対応・配慮を要する者への対応 | |
| 3 | 総論 診療時の共同動作 | 共同動作の基本・術者、補助者、患者の位置姿勢 | |
| 4 | 総論 診療設備の管理 | 歯科用ユニット・エックス線装置・レーザー装置・酸素吸入器など | |
| 5 | 総論 医療安全管理 | 医療事故の防止・感染対策 | |
| 6 | 総論 消毒・滅菌 | 消毒・滅菌の定義・種類と効能・方法・管理 | |
| 7 | 主要歯科材料の種類と取扱いと管理 模型用材料 | 歯科用石膏の種類と用途 | |
| 8 | 主要歯科材料の種類と取扱いと管理 合着・接着材料 | リン酸亜鉛セメント・ガラスアイオノマーセメント | |
| 9 | 主要歯科材料の種類と取扱いと管理 合着・接着材料 | ポリカルボキシレートセメント・レジンセメント | |
| 10 | 主要歯科材料の種類と取扱いと管理 印象用材料 | アルジネート印象材・寒天印象材 | |
| 11 | 主要歯科材料の種類と取扱いと管理 印象用材料 | ゴム質印象材・酸化亜鉛ユージノール印象材・モデリングコンパウンド | |
| 12 | 主要歯科材料の種類と取扱いと管理 歯冠修復用材料 | ガラスアイオノマーセメント | |
| 13 | 主要歯科材料の種類と取扱いと管理 歯冠修復用材料 | コンポジットレジン・接着システム | |
| 14 | 主要歯科材料の種類と取扱いと管理 仮封用材料 | 種類・用途 | |
| 15 | 試験 | 前期試験 | |

| | | | | | | | |
|------------------|---|-----|---|------|-------|------|----|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 1 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 講義 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 1 |
| 科目名 | 臨床検査法 | | | 担当者 | 非常勤講師 | | |
| | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 臨床検査 医歯薬出版 | | | | | | |
| 科目概要 | <p>歯科医師の実務経験を活かし、検査データの見方や、生体検査、血液検査、細菌検査の実際について、また、検査の準備、介助および補助、患者への対応について講義する。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 一般臨床検査の種類と目的を説明できる。 2. 検査の倫理と安全性を説明できる。 3. 検査値の評価の重要性を説明できる。 | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>期末に筆記試験を行う。また、小テストと授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70~79点B, 60~69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。</p> | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | <p>担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</p> | | | | | | |
| 事前準備 | <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|-----------------------|---|----|
| 1 | 特別授業 | 新型コロナウイルスについて | |
| 2 | 臨床検査とは | 臨床検査の倫理、必要性、分類について 精度成績の読み方について | |
| 3 | 生体検査 | 体温・脈拍・血圧検査 脳波検査及び基礎代謝検査 心 機能・肺機能・筋電図検査 | |
| 4 | 検体検査その1 | 血液を用いる検査 血液学的検査 生化学検査 | |
| 5 | 検体検査その2 | 免疫・血清検査 炎症の検査 ウイルス検査 アレルギー及び自己免疫疾患の検査 | |
| 6 | 検体検査その3 | 血液型検査 細菌検査 病理検査 | |
| 7 | 口腔領域の臨床検査その1 | 口臭検査 味覚検査 歯科金属アレルギー 舌の検査 唾液検査 | |
| 8 | 口腔領域の臨床検査その2 | 摂食嚥下関連の検査 摂食嚥下障害のスクリーニング検査 摂食嚥下障害の検査 | |
| 9 | 主な疾患・病態別検査値の 捉え方 1 | 糖尿病 | |
| 10 | 症例検討 | ロールプレイ方式の グループディスカッション | |
| 11 | 主な疾患・病態別検査値の 捉え方 2 | 胃・十二指腸潰瘍 ウィルス性肝炎 貧血・感染症・急性炎症 | |
| 12 | 主な疾患・病態別検査値の 捉え方 3 | 妊娠 ホルモン 甲状腺機能亢進症/低下症 慢性腎不全 | |
| 13 | 主な疾患・病態別検査値の 捉え方 4 | 虚血性心疾患 心不全 高血圧 不整脈 | |
| 14 | まとめ | 試験対策 | |
| 15 | 試験 | 前期試験 | |

| | | | | | | | |
|--------------------------|---|------------|---|-------------|-------------|-----------|---------------|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 2 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 講義 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 3 |
| 科目名 | 栄養指導 | | | 担当者 | 非常勤講師 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 歯科予防処置論、歯科保健指導論、プリントを配布 | | | | | | |
| 科目概要 | 管理栄養士の実務経験を活かし、人間が生命を維持するために重要な栄養・食生活についてを解説し、食生活指導を行うにあたり必要な歯科衛生士としてのあるべき知能・技術・態度を高める指導を行う。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養と食生活に関する基本的知識を習得する。 2. 対象者の問題点を把握し、ライフステージと機能障害に応じた食生活指導を行う事が出来る。 | | | | | | |
| 評価方法 基準 | 定期試験の点数ならびに出席点数の合計で60点以上を合格とする。 | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | 担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。 | | | | | | |
| 事前準備 | <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|---------------------|------------------------------------|----|
| 1 | 歯科と栄養の関わり | 講師紹介、訪問栄養食事指導と歯科 | |
| 2 | 国民の健康と栄養の現状 | 日本が抱える健康課題について | |
| 3 | 栄養素の役割① | 5大栄養素とその役割、働きについて | |
| 4 | 栄養素の役割② | 日本人の食事摂取基準について | |
| 5 | 食生活と健康 | 望ましい食生活について | |
| 6 | 食に関する指導 | 食品の成分と分類について 保健行動支援のための基礎知識について | |
| 7 | 生活習慣病と食事① | 歯科疾患と生活習慣について | |
| 8 | 生活習慣病と食事② | 生活習慣病の予防について | |
| 9 | ライフステージ 妊娠期、乳幼児期 | 妊娠期、乳児期の栄養摂取方法について | |
| 10 | ライフステージ 学童期、思春期 | 幼児期、学童期、青年期の 栄養摂取方法について | |
| 11 | 摂食嚥下と食事 | 老年期における摂食と嚥下について | |
| 12 | ライフステージ 老年期 | 老年期の栄養摂取方法について | |
| 13 | 食品と齲蝕誘発性 | 齲蝕誘発性、糖質の分類について | |
| 14 | まとめ | 総まとめ | |
| 15 | 試験 | 前期試験 | |

| | | | | | | | |
|------------------|--|-----|----|------|-------|------|----|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 11 | 開講時期 | 後期 | 形態 | 実習 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 495 | 対象年次 | 2 |
| 科目名 | 臨床・臨地実習（Ⅰ） | | | 担当者 | 金子 聖美 | | |
| | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | 臨床実習HANDBOOK（クインテッセンス出版） | | | | | | |
| 科目概要 | <p>歯科衛生士の実務経験を活かし、学生が実習を通じて歯科衛生士の業務内容の実際や資質を確認することを支援し、医療・福祉に関わる専門職としてのあるべき知識・技能・態度を高める指導を行う。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 業務を実践するために必要な知識、技術を修得する。 2. 医療従事者としての行動を身に付ける。 3. 患者の問題点を総合的に把握し、解決できる能力を身に付ける。 | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>実習態度、実習記録、実習先施設からの評価表をもとに総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。</p> | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | | | | | | | |
| 事前準備 | <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|------------|------------------------|----|
| 1 | 歯科衛生士の基本姿勢 | 時間の遵守、自己の健康管理 | |
| 2 | 診療体系 | 診療前準備、および後片付け | |
| 3 | | 受付業務患者の受診準備 | |
| 4 | | 患者の受診準備 | |
| 5 | | 基本的診査器具の準備 | |
| 6 | | 診査診断の補助 | |
| 7 | | 診療の流れに応じた補助・介助 | |
| 8 | | 使用器材の管理 | |
| 9 | | 薬剤の種類、用途、保管方法 | |
| 10 | | 消毒・滅菌方法 | |
| 11 | | 医療廃棄物の取り扱い | |
| 12 | X線撮影法 | X線撮影の準備と補助 | |
| 13 | X線撮影法 | X線写真フィルムの現像操作、整理及び保管方法 | |
| 14 | 頻用する歯科材料 | 歯科材料について | |
| 15 | 感染予防対策 | 感染予防と患者への対応について | |

| | | | | | | | | |
|------------------|---|-----|---|------|------|-------|------|---|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 8 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 実習 | |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | | 配当時間 | 360 | 対象年次 | 3 |
| 科目名 | 臨床・臨地実習（Ⅱ） | | | | 担当者 | 金子 聖美 | | |
| | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | | |
| 使用教材 | 臨床実習HANDBOOK (クインテッセンス出版) | | | | | | | |
| 科目概要 | <p>歯科衛生士の実務経験を活かし、学生が実習を通じて歯科衛生士の業務内容の実際や資質を確認することを支援し、医療・福祉に関わる専門職としてのあるべき知識・技能・態度を高める指導を行う。</p> | | | | | | | |
| 到達目標 | <p>1.診療内容を理解できる。 2.適切な歯科診療補助ができる。 3.適切な歯科予防処置ができる。</p> | | | | | | | |
| 評価方法 基準 | 実習態度、実習記録、実習先施設からの評価表をもとに総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。 | | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | | | | | | | | |
| 事前準備 | <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|----|---------------------|----|
| 1 | | 各実習先施設にて360時間の実習を行う | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |
| 4 | | | |
| 5 | | | |
| 6 | | | |
| 7 | | | |
| 8 | | | |
| 9 | | | |
| 10 | | | |
| 11 | | | |
| 12 | | | |
| 13 | | | |
| 14 | | | |
| 15 | | | |

| | | | | | | | |
|--------------------------|---|------------|---|-------------|-------|-------------|----|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 1 | 開講時期 | 後期 | 形態 | 実習 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 45 | 対象年次 | 3 |
| 科目名 | 臨床・臨地実習（Ⅲ） <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | 担当者 | 金子 聖美 | | |
| 使用教材 | 臨床実習HANDBOOK（クインテッセンス出版） | | | | | | |
| 科目概要 | <p>歯科衛生士の実務経験を活かし、学生が実習を通じて歯科衛生士の業務内容の実際や資質を確認することを支援し、医療・福祉に関わる専門職としてのあるべき知識・技能・態度を高める指導を行う。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <p>1. 歯科医師からの指示内容を理解し、実践できる。 2. 歯科衛生士に必要なスクリーニングと検査ができる。 3. 資料やデーから歯科衛生士業務の内容を判断し、行動できる。 4. 医療安全管理に配慮した行動ができる。</p> | | | | | | |
| 評価方法 基準 | 実習態度、実習記録、実習先施設からの評価表をもとに総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。 | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | | | | | | | |
| 事前準備 | <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|----|--------------------|----|
| 1 | | 各実習先施設にて45時間の実習を行う | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |
| 4 | | | |
| 5 | | | |
| 6 | | | |
| 7 | | | |
| 8 | | | |
| 9 | | | |
| 10 | | | |
| 11 | | | |
| 12 | | | |
| 13 | | | |
| 14 | | | |
| 15 | | | |

| | | | | | | | |
|--------------------------|--|------------|---|-------------|-------|-------------|----|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 1 | 開講時期 | 前期 | 形態 | 講義 |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 15 | 対象年次 | 1 |
| 科目名 | 歯科材料学 | | | 担当者 | 非常勤講師 | | |
| | ☑ 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 使用教材 | (最新 歯科衛生士教本 歯科診療補助論・歯科材料・歯科機器) プリント | | | | | | |
| 科目概要 | 歯科医師の実務経験を活かし、歯科治療における歯科材料の特性や使用法、臨床での実際の治療を紹介しながら、将来の歯科医療における歯科材料及び機械・器具の方向付けにも言及し、その応用性について講義する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1.歯科材料，機械と器具についての基礎的な知識を習得する。 2.各歯科用材料の材料学的特性や取扱い方について理解する。 3.各歯科用材料の管理方法，各歯科用機械と器具の取扱い方について理解する。 | | | | | | |
| 評価方法 基準 | 期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA，70～79点B，60～69点をCの評価をし，60点未満の者には再試験を課す。 | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | | | | | | | |
| 事前準備 | ☑ なし ☐ あり | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|---------|----------|----|
| 1 | 歯科治療とは | 歯科治療の全体像 | |
| 2 | 印象材 | 歯科材料の分類① | |
| 3 | | 歯科材料の分類② | |
| 4 | 合着材・接着剤 | 合着と接着の概念 | |
| 5 | | 成形修復材料 | |
| 6 | | 国試対策問題演習 | |
| 7 | | 国試対策問題演習 | |
| 8 | | まとめ | |
| 9 | | | |
| 10 | | | |
| 11 | | | |
| 12 | | | |
| 13 | | | |
| 14 | | | |
| 15 | | | |

| | | | | | | | | |
|--------------------------|--|------------|---|-------------|-------|-------------|----|--|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 1 | 開講時期 | 後期 | 形態 | 講義 | |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 3 | |
| 科目名 | 総合歯科予防処置 | | | 担当者 | 西山 裕佳 | | | |
| | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | | |
| 使用教材 | 教科書（最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置・歯科保健指導） プリント | | | | | | | |
| 科目概要 | 歯科衛生士の実務経験を活かし、齲蝕予防管理と齲蝕発生因子を関連付け、歯周病予防処置についての基本的知識を解説する。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 1.歯・歯周組織の検査について説明できる 2.使用機器・器具の種類と特徴を説明できる 3.メンテナンスの目的と評価について理解する 4.齲蝕と全身疾患の関連、フッ化物について説明できる | | | | | | | |
| 評価方法 基準 | 期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。 | | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | 担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。 | | | | | | | |
| 事前準備 | <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 単元 | 内容 | 備考 |
|----|------------------------------|---------------------------------|----|
| 1 | 歯周病予防処置 歯・歯周組織の検査 | 動揺度検査 | |
| 2 | 歯周病予防処置 歯・歯周組織の検査 | 検査結果の評価 | |
| 3 | 歯周病予防処置 計画 | 歯周病予防計画 | |
| 4 | 歯周病予防処置 スケーリング・ルートプレーニング* | 使用機器・器具の種類と特徴 | |
| 5 | 歯周病予防処置 スケーリング・ルートプレーニング* | 操作方法 | |
| 6 | 歯周病予防処置 スケーリング・ルートプレーニング* | シャープニング | |
| 7 | 歯周病予防処置 歯面清掃・研磨 | 使用機器・器具・材料の種類と操作法 | |
| 8 | 歯周病予防処置 メンテナンス | 目的・評価 | |
| 9 | う蝕予防処置 基礎知識 | う蝕と生活習慣・全身疾患の関連 | |
| 10 | う蝕予防処置 評価と計画 | う蝕のリスク評価・う蝕予防処置計画 | |
| 11 | う蝕予防処置 フッ化物歯面塗布 | 使用薬剤の種類と取扱い・塗布法の分類と術式 | |
| 12 | う蝕予防処置 小窩裂溝填塞 | 填塞材の種類と特徴・適応症・術式・実施上の注意 | |
| 13 | う蝕予防処置 フッ化物洗口 | 使用薬剤の種類と取扱い・適応症・実施場所と洗口法・実施上の注意 | |
| 14 | う蝕予防処置 フッ化物配合歯磨剤 | フッ化物の種類・使用法 | |
| 15 | 試験 | 後期試験 | |

| | | | | | | | | |
|------------------|--|-----|---|------|------|-------|------|---|
| 履修区分 | 必修 | 単位数 | 1 | 開講時期 | 後期 | 形態 | 講義 | |
| 学科名 | 歯科衛生学科 | | | | 配当時間 | 30 | 対象年次 | 3 |
| 科目名 | 総合歯科保健指導 | | | | 担当者 | 金子 聖美 | | |
| | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | | |
| 使用教材 | 教科書（最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置・歯科保健指導） プリント | | | | | | | |
| 科目概要 | <p>歯科衛生士の実務経験を活かし、健康教育の在り方や誤嚥性肺炎の予防、在宅での口腔ケア、口腔機能向上のための口腔清掃の自立支援等、対象者の健康を維持するための知識について講義する。</p> | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1.生活習慣指導の要点と指導法について説明できる。 2.食生活指導における対象別指導法を理解する。 3.口腔機能管理の意義と目的・種類・成長と発育について説明できる。 4.健康教育の要点について理解できる。 | | | | | | | |
| 評価方法 基準 | <p>期末に筆記試験を行う。また、授業態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。80点以上をA, 70～79点B, 60～69点をCの評価をし、60点未満の者には再試験を課す。</p> | | | | | | | |
| 成績評価の フィードバック | <p>担任を通じて成績優秀者を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</p> | | | | | | | |
| 事前準備 | <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり | | | | | | | |

